二條流軍馬秘書五種

862
57

目次

二條院軍馬秘抄
軍馬秘術問書
秘術問書極秘抄
五大事極至秘
口傳

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

862-57

二條流軍馬

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

一 真革行縢之事

真の縢ハ左手に紫革ハ前一へかゝり行ハうしろハへかゝりノル

一 手綱上中下之事

上ノ手綱ハ馬の頭より六寸手ニおもて元手ハ馬の首まんなかヲトル下の手綱 真ノ手綱十八キ 陣手綱元結

中ハより延ゆひへかゝりまでとり 礼の敷之

一 足手綱之事

糸を鳥合のゆより左にて通しおもての平緒付ル穴へゆひ付ル右ハ

まへに附ハ右の鞍をけ出したりの鐙と糸のまよかけメべし右へまわして

附ハ左をけらし右すしメル

一 乗木移り之事

右乗れ乗まへうりてかゝりてのるくて乗れざる為之

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

一 三手鞍之事
手綱をとるとまかて通し手綱よせつけ鞍の渡りめに立へし

一 浪枕之事
手綱をすきまかて通むすひてしまて通へしたりへ下る時は右れよとて通しこれてする前くに寄て下るへしのる時はむかひとえてのる右へ下る時はたれのとをそへて手綱を通す外あるへし

一 芝繋之事
手綱しくる馬の前足をうしのよくゆひ留る手綱をしまて通しゆひ寄る又手綱をくりの前へつけ鞍の前くさきをおもかいへつけとむる

一 橋乗様之事
手綱をたりまる十文字にかね右え鞍の組違をえ遠山を見常のに毎年のるより乃通一つたしとあするたのるへし

一 細橋渡様之事
手綱を後鞍にかけ馬の先を見て行へし鉾かる屋尾をとれ渡す

一 細道乗様之事
たりるえるつるを十文字にかね鞍の組違をえ遠山を見る常のことのるへし

一 細道乗下り之事
鞍の下えを首とる手綱をおもかひとえ流前へ手をかけのる手綱を前へ流てものる下様をくみをそのまへにかけそのるそれ首けをえ流したるのしらへすりる亭鞍のくみあふみをまちしおりてとふしくすよこしとつけ鞍の組違を文添にたれへ手はえるはへき下る、

一 細道乗違之事
たりのあふみをとろうし馬のくひにかけ足をくつ此前へつけたれえまつるまと

十文字にとり馬をかこ節〻いまた無方つ矣に足を切捨むちを打て

係べし

一早道乗様之事

每ツメ ヤトリカケ 大輪口

太輪あり大わらひとりけは半手小口よりのるべし左の方へ廻る時は

右の手綱をあけつゝやくして様何も馬にいきつて為すれど廻る

鞭よるべし 末下こまつゝけるべし

一遠道乗様之事

手綱よたえ十文字にとり左の足を鞍れ前輪へかけのりをつかれさる

時は左りをはつし右をかけ直し右手綱をもつべし

一馬上太刀討之事

手綱をあけてまわつて通し上常へ向き抜取たとえ遠めにも左手綱を元

太刀のさやにとりをうけ右の手えさやをえたえ手綱へ抜かるゝことを

抜右のる、廻し抜べし 右の敵を打時は右の鐙を強く

踏左を八文字に踏左を討時は右を強くたり左へ八文字にふむべし

一馬上鎗持様遣様心得之事

手綱を左の肩にかけ右の脇の下へ左手付鎗は鐙の下先に当て持べしつかい様

あぶみの内の方へ向をつゝし手綱より添左を突には右の鐙とつよくふみ

右を突時は左を強く踏べし前後は右にふみて馬をまはしたるとの前後

つゝけ左をさし糸を当べし退時は鎗の元を抜

つゝけさして糸を当べし手綱をつくしむべし向へるを抜

首の方へやりを突て向ル

一馬上弓持様 付り 張いつ様之事

弓ともみいつさして前へ立て左の肩へ付るを向ル

一馬上弓射手綱之事

手綱を左の二のゆびへかけ左の元手にかけ矢をつかいて射べし 前後

右左ともにて馬をまはした

一馬上鞦付兼摸之事

うりかを通しる服に上手てのるべし

一馬上長刀持摸之事

長刀を鞦へさし右の手にて逆手に抜上鐙のふり立付へ三手綱よりはそ持
手綱ハ左の肩に掛右の脇下へたるむ又右のしをて三まつるまれそ
つても持そるをとるへし是を後へ通し左にて逆手にも持

一馬上午縫手綱之事

手綱を右の方へ縫り左の肩に掛け右の脇の下よりも首に掛右の
みぢを通して又首に懸べし左の手綱をしめによるまられぞよし
陰遺附ハ手綱よりは添て突鑓の跡は後にてる持保にあるべき又附
时手綱をあちへらくる太刀討長刀つるふまとよし太刀討ハ右へ行手打
たるよし时義に随て馬上にも也

一揩無指懸之事

一鏢折タル指摘之事

進退立ル敵の方へ引矢あしくいの手れは鐙の前をまくりつけよのるべし
王ノ目当ヨリ十カヨウニロ
あるみくいをあけして又べた馬ののどあへ足かけ前え馬の足へかけかけ
川あしして右の手をそへとめ鏢をあてべし 左右ノこツテヨ[illegible]人ム

一三階切タル事

三つ いきれるる附ハ[illegible]を合て用

一逆鞄切タル事

あとるとの手て解きすてちくろうとのこと下にしてあぶみをかけるしくらされ
のあとあるりのとえあやつ合て付ル又手刀切たる附ハ引うしてむ
まるのる
[redacted]

一鐙無指懸之事

かるとのあるふり所きのふと成るる附ハ系え逆鞄の穴とあそ
こそるへのしと入てのるべし 鐙ハかくこ不用

一 悪所時心得之事

乗たしかるの鐙（アブミ）に金鐙ハあしく毛のさわりに手綱を用馬支るをと
又ハ道を下てもいかるく事なし殺生ても馬の為なれとも馬の忘れたる
中程縄から糸ならでもふへし解難き様よき也へく中へ入しかるとのべかり
にてまけたる者にはせ候へし

一 無音之轡之事

是ハ馬いなゝかせさる為なれハ二三下の方夜とし馬の口へ入糸にてを
むすり指を中ニゆひあけ糸を付馬れ口に入下口へゆひ付ル

一 鞍下之事 付り 力革之事

横さん前のかけをもとて通し馬にいとを付てよくに切出角にしとをと
をかけ又いとニ三寸にて切よふみにかけ鞍下にかけてのへ
し力革も通るにかくる通し馬にハ糸竹ちを入れてまりあかを
用鞍の革を当てのいき合のわへ縄をかけ下口をくにおむすひ結
さまりある所肉のかへ入してのるへし

一 軍馬心得之事

軍馬ニハ（さらし偽り不申）おとしつるとりちコミつる不ヤンノつる・
又ハ急ニて小荷を用小荷駄の結ヲ用長千れ大きなるもあしく
又其て少きもあしく長きを付れハにと前の方にあて物脇のつかき
とするヲツメツヨリ足ハヤキヲ用

一 馬餓ニテ張タル事 付り 手負之馬乗事

馬餓ニテ弦なる時ハ一貴セめて後水をくると抜出しあらふへし
又手負たる馬にハ右衣れ水身をゝ急ぎ皮をあめ下ゟ水を合ニ馬を
おもくして吹らせ（カミヤスメ）当へしとあるべし留

一 陣幕出之事 付り 團扇之事

味方常の幕之立入、右衣れまへ之幕のまそを左の手にて上をさし
おこして入出る時ハ右の手を下に右をさにかけて出る上の物見ぬ二ヲ引シ（モハ見ハ）
日月 一の家よ其出かる 敵陣れ幕へ一度入る時ハ一さんよるとのりかけて
幕を押入幕くしの結をし陣をなす切て差入出る時ハ大刀にて幕を難被

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

にて事有にられて幕を張へかけらして張る團扇とはうちはあまたきの
事く敵をうちたる時は團扇あげおひとの末をまうす 味方まけたる時は
下へあふる也 先ノ方ニテオス 味方ヨリオスニハ本ニテオス

一杏葉 付り 沓之事

沓巻とは沓の前の通りにめきて[illegible]のそめかうかめに[illegible]
の様に沓の前の通[illegible]のまかくべし[illegible]沓を[illegible]川 沓之事
とは[illegible]川の事[illegible]のあしをみてどろ[illegible]して[illegible]そくる
馬の尾女のうみのけを[illegible]して[illegible]て沓をかくへし

一前後流腹帯之事 付り 二重腹帯之事

前後流腹とは細引をもちて馬の前足くらしの上[illegible]の方[illegible]腹の
下より引廻し[illegible]へ通し一[illegible]もむすぶへし 物見[illegible]作手 敵城
れ押[illegible]時[illegible]細引を[illegible]てメへし 又乗初[illegible]
[illegible]時[illegible]馬ハ[illegible]の事之右[illegible]に[illegible]の[illegible]の上
[illegible]腹より引廻しそて一通し[illegible]十文字に[illegible]右[illegible]細
引を[illegible]て[illegible]時[illegible]引廻して[illegible]して通そ

[illegible]し二重腹帯ハ[illegible]のあるを二重にはからして[illegible]

一馬上組打首取様之事

一深田乗様之事

深田と[illegible]馬の腹[illegible]たゞ[illegible]手綱を
[illegible]十文字の[illegible]して右の手[illegible]
てのるへし

一川大橋飛入事

川[illegible]も大川ハ[illegible]たゞ[illegible]三間四間 [illegible]のの橋の[illegible]之
[illegible]上[illegible]のり[illegible]べし[illegible]の橋之[illegible]
[illegible]に[illegible]し又[illegible]もあ[illegible]し[illegible]へのりかけ
[illegible]手綱[illegible]あて[illegible]馬[illegible]のあけ[illegible]
[illegible]し[illegible]の[illegible]るに[illegible]て又のり
[illegible]の川て[illegible]るま[illegible]あて[illegible]
トハスル所ニテ八十ヨ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

まそてむちおて知久へし

一 河可越事

川にも海にも渡へし先川をわたらハ向の岸に協て見て定めて手綱
をたくり出て引つけゆるまさハ十文字にて浅瀬よりのりわたし其の組遣を
川上の鐙を（ヒラキ）川下の鐙を馬の腹に付かくともせざれ気をつけ川めて
渡すへし向の岸を川上に少しつゝ押して川より川下へ（或）なると気をつけし
て又川をこして来るべし川岸をよく見て馬せく事なし只一気に付気をつけ川
めいりてもとをとゆくして静めかへすべし川中にて響をうくへからす馬難し
一云ふに（テ引込ハ沈ミモノナリ）水に又おそりとも事一向に川して捨へし
にあらず手をつけて只それ解 右の方と左の方を左の方と
右の手をへつけ馬のさしにつけへし左その早川なれど鐙をさし川
またてをさし川しめ馬の（縁輪ノ所ニテ）組合をよくして馬のあしをかうに
水をうきてるにも渡へし 鐙の組緒をむすんとしてとたりにして又はさらに組
又馬いかにも組てうたる事なるよらき馬をたてにも強き馬をよくすに渡し
うち武者をいさゝか乗へきくつかのくるいもすゝ先をも川中
我かるのあたそへゆいつけてると一めんにたてはかかるへし海なれども向上端

是ハ引合ニ用テ之當流ノイテナシ

一 浪之浮沓之事

此の体あり鐙をハ文字にふんて渡ス手綱ハ川と同断又水とこへ川へいる
ゝる馬あり川岸よりおり川をりて手綱をよこり出さハへし左行をさ
あけるとあんはてに後引出して来入へし又川なしの馬手行の無案の殿とは水
をこえよもこと行る馬を行へきと見をて下り所ハ無しのかゝりくい扇にも馬の
耳へ添く云ヘと見をて行の無案の殿と云秘傳之

一 スコイ二テ條之事

馬おとのゝさる事なるを附ハ細川を皮足へつけて右前足のあるよりをさ引
つゝしまひ手綱よう添て又へしよ又細川と尻尾のうしろへゆひ付けてたゝきのある右
川をしのまりくきんを打ててとのまる

一 馬舟中ニ置様之事

馬を舟のりにむかは横に置へし喰合をもつめさする為なれど鐙と鞍とを
組遣て一めんよりさへし又馬のしとよくとるのし川へゆらてとつ置り
又たとへそとくしとゆいてとおく

一車行違之事
車行違候一文字に馬をのりかけ左にも右にも馬のきれたる方へ向ふのり
行違ふべし
一上手下様之事
たかきのかたを上手下手之下手を下手なりしのられに下手べし
一荒野乗様之事
馬の立てる手綱のかゝい坂をたて人あたり又あたりいせたるたを紙よねりてたみへ
かゝこゆるべし せたるのあき附ハ人の小便ん前足を折りてかけ人気たを
へつりみて申かへし 標あたりのとへつるは又行へと坂を行山まよしき
てゝ川へしんと前足を水くんのまを紙へ包ては東へつくるべしのんと聖
うだ
一嶮傳之事
嶮うは松ノ目ツゝメ々之上手ノ行敷ミ事也右にし手綱手ずまた文字まま鎧を八文字に踏
右をし後行をあくりへ上の方の荷木へかゝりてのるべし
一スメリ道乗様之事
中の鞍にのり鎧を八文字に踏ミすへしてのるへし前ハ附前輪へかゝり
て前るむまきたる時をりハ弓を小行のミ立ゆるを手ハ前にあたるて前
行のかへつけ又手前ハ前二打にて皆のちへ通し あをるぶ前皆
手おて友皆ハうしんきを前にあ又金に行ていと用枝金くあるきあ
あけいふ三つ手ル是レハ久ルイノ上ヲノルトキ用ユ
一岸石坂落シ之事
かんせき坂とハ山坂の岩石かまた岩かるの事ニ岩うと馬へおそるも身もあれ
ゝ附ハ小るあのれときれるのありを馬の目へ岩の前る通へ向けべし 鞭持
まる附ハつくようく
一自落之事
馬を立シ行所にとんまき後鞍んぜきつ方深岩をまし前足附
ハ手綱を右の足にかけ 右かいをたり 右左右のけりあきさ方へあり
手綱をとめべし
一宛後之報之事
馬うけ出し行所よもとをるは場所おしく 自落も所ハ坂下あらハ
抜打まるの前ゝ首を打落まべし 是ハ後殿之馬にまるあれ

ざるを馬二とすれども右のさくとまうる内ハ手綱をたりあふしとをく
通事ありて為くるめるの又に鞭をおべし是とも とまうる以ハ乱の
手付ハ少力にもさし首を直に乞

一 肝強馬二ヶ條之事

肝強 [illegible] 足ヲツヨキ馬ハ手綱ニテシヲテ（トヨシノル
の如く [illegible] 毎にさし（通ニ十文字にして鞭を
口より入 [illegible] 強弱の [illegible]
ヤケ出ル馬ヲトムルニ大ノコトシ

一 鞭七ヶ條之事

蓬莱の鞭ハ [illegible] 馬年のる（ホウツ）[illegible]
ハ馬の又よしにおとくいの下をおし両目ハむかう出す馬におさ [illegible] とおし二日月
におさふし [illegible] 小さきをおトししにおアカリハきれ馬の口の
わきにらみにおし平首ハるといふもるちち之平首をおし
国蓋之鞭ニハ物あらくるニおし年の猫をおべし

（シオラスルニモ・却ルニモ・川伏ニモウツ）

一

ちゆ國事こゑらして書て形ある事のある〳〵し所
能いる [illegible] いる [illegible] て妖出て おしおへく
いの事系 系事るやさいをよし [illegible]

二條流軍馬秘書

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

二條流軍馬秘書

一 真平行之鞍之事

前後ニ乃鞍之定ハ鞍中央ノ鞍ハ前行ノ鞍後ニ乃テニ陰陽ニ宿ル口傳

一 手綱上中下之叓

上中下之綱之口傳（六八）

陰陽命ト云ニ上中下之品繪尺之叓口傳

一 足手綱之事

綱ハ二仕而左右ノ引手ヲ二ツニ結手鐙之鏡耳之穴ニ結付ル 口傳

太刀討之附前後左右働之

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

一 居木ウツリ之事 左右之手ヲユリテ左右ノ二ツ木ニウツル之

一 立鞍之事
手綱ヲ鞍ニスヘテ前ニ引通シツレヨヒカイ鞍カサニ立展ノ内ムカフル
又ハ展ニ乗ル口伝

一 浪枕之事
手綱のハシヲヨキ頃ニウツモリ鞍之前輪之スヘテ段ニ引通ニ結ヒヲハシヲ
鞍之内ヲ引通シテハシヲ取鐙之鼻ヨリクヽリ下成テ取口伝
小曲取様口伝秘秘サモカニ可カリ口伝

一 笑鞍之事
手綱ヲ鞍ニ引通ニ結置其文前ヨリ揃テ結置両カイノ綱之所ニ
鐙ヲ引カケ置一秘伝々奔口伝

一 壹ツ橋乗様
一ツ橋ニ思ムチク馬の耳二ツノ間ヨリ見通ニ乗秘橋渡 歌口伝
橋ツマイ口伝橋辻ツマイ口伝

一 綱橋渡様之事
手綱ヲナカクシテ引カセ鞍ヲ馬ノ尾ヲヒカイ渡ヘシ

一 綱道乗様之事
遠山ヲ目当ニ乗テ綱ヲ左右馬ノ首中ニテ取遠乗ニアカリ鞍内ヲ
ウコカサスノル亦行テ綱ニテ文字ヲ取組違ヲ取之

一 綱道乗下リ様之事
馬ノ表ニ立両カイヲトリ鐙ヲ取引近ニテ前ヨリ乗下ル時ハ鞦ノ組

一 綱道乗違様之事
遠ヲ取振カヽリテ下ルヘシ前ニ下ル時ハ馬ノ首ニノリコテヲリヘスル

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

鐙ノ合せんヲ手綱ニ取添テマカリヲ跡ナルニテ敵之組遠ヲ取馬ヲ小後ニシテ人ハ下ヨリ乗ゑナセアメル也ニテ右ト也ス別ニ深ク傳有

一　早道乗様之事

息切ルヽモノナリ輪ニ三度宛懸テ乗ツヽラヨリ息合ノ手綱也無浅ニ取

大輪小輪餘之口傳秘授

一　遠道乗様之事

是ハ三日坐之附テ足ヲ究アクラノ如ク前輪之外ニテ上テニ宗口傳

一　馬上大刀討之事

右ヲ切附ルハ鐙ヲ踏ミ跡ナルヲ切附ハ右ニ踏ミ跡之手綱口傳　猶秘口傳

手綱ノ大事

一　馬上鑓持様並心得之事

弓鐙ノ合せんニ右突ヲミニ持口傳　当敵口傳　二ツル敵ヲ突之ト手綱ニハ突カントニ氣當ハ馬當テ突ヘ志之突敵口傳手綱徒手取口傳

一　馬上弓持様之事　附リ　張ハツシ様之事

弓ノ張ニ出テヨリ左の肩ニ懸テ持前輪ガハツヲ実入肩ニカケルモヨシ

張ハツシ様秘傳

一　馬上ニテ弓射ル時手綱之事

右ニ手綱ヲかくハ左んヲ結ベシ右の肩ニうけ張ニ出して可射又左ノ肩ニうけ右の脇ニ引通ニテト手綱ヲ持口傳

一　馬上銃持様之事

ウツホヲ持テハ敵ヲ指サカラス脇ニサスベシサカラハヒサカシラニスリ上見ルニ

一　馬上長刀持様之事

ソリヲカエシ持东ソリヲ返サカサマニ持ヿ悪口傳

一　馬上ニテ鞭手綱之事

マタヲ手綱の真中ヲ宗ニ當テ右手之手綱ヲ引ツクベキニカケテ右ノ手ニうけ鞭ノ前輪ノ前ニテ手綱取添テ口傳

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

一 楯サシ指拭之事　アヲリ佩楯ヲ用ヘシ口伝

一 鞭折タル指拭之事　川手ノ舎ヲ緒合可重大ニ口伝

一 三階切タル指拭之事　二ツニハリ緒合ヲ用ニ二ノ人ヘ手織ニテモ用

一 逆鞦切タル指拭之事　アヲリノ緒ニ二ノ人ヘ縄ニテモ用

一 鐙サシ指拭之事　何ノ(?)モ蹄カナ(?)ヲ金(?)指ニ入ヘシ唐人ヘ縄ノ(?)口伝

一 忍ノ時心得指拭之事

本縄モアヲリヨリ用カラ糸ニテ馬ノ舌ヲ縛イナカス

一 サシ音之轡之事　水(?)ノ(?)口(?)板ニ指中ニ穴ヲアケ緒ヲ舌ニニ縛(?)ル

一 轡下之事　詳ノ薦カ之事　細竹ヨク々ニ切節ニテワリ切ツテイ(?)ク々ニ糸ニテトヂ轡下ニカケルコトミヨミ口伝アリ尖ハ二或ハ三ツハ三ヲ用指口伝ニハ薦カヲカケヘシ鉄ニテ
　秘(?)ニ仕(?)ハ三ノ輪ニカケ口ヲスヘテノルヘシ

一 軍馬心得之事　軍中ニテ馬ススマレオル用心専一ニ切馬コミスル白(?)ヒシ(?)ル(?)紀(?)不用 小タチナルハ前ヨリハ長大ヘモアシ、四寸五寸位ニテ物喰能前後ヨ(?)法 凡(?)学キヲ用

一 馬戦ニ手綱長タル事　并　手綱通ノ(?)ル業ノ事　ヒヨ流ル(?)体メテ二条(?)赤面ニ水ヲフキカケヘシ手ニ余ルハアフミ右ヲ踏出シ 左ヲ後ニ踏乃(?)右(?)同前 轡下法ニテ馬ニツケル

一 陳幕内外圍扇之事

一 前後流蘇帶之事 附二重鞦之事

一 水呑之事 并水呑之事

一 馬上組討首取様之事

一 深田葉様之事

一 川大構飛乙ル事

一 川可越様之事

一 浪之浮呑之事

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

一 舟スマイ二間遊之事
前輪之鞍石ニ緒ヲ付後足ニ引通シ左鐙ヘ絡付手縄ト云ニ引入ヘシ
又尾ノ先ニ緒ヲ付後足之間ヨリ前ニ引通シ金ヲウテハル

一 馬舟中ニ留様之事
馬ヲ振ニ密口傳 鐙組違緒ヲ緒ニテ手ニ寝様ニスル口傳有之ハ依様ニスヘシ

一 車行違之事
輪ナリニ乗テ物音ニヲトロクアルハ其物ヲ中ニミテノル

一 大手乗様之事
手ヲカケニ密口傳

一 焼野乗様之事
草鞋アル水ヲ入ラニシテ後ヲ向山ニ入ル密口傳

一 嶋傳之事
上ノ方ニカヽリ乗大違大手ヲ急ニノル流ニ落ト云

一 スメリ道ニ乗様之事
皆ノ中ヨリ十文字ニ絡尾皆ヨカケズ鞍ノ内ヨリ一文字ニ絡ミノル留ルニハ
ミソリ留ル一ミカケ留様同前

一 岸石坂落ミ之事
我トアルト常ルニアヨリカケ鉦ヨツヘシ実可落又右ノ手ニテ手綱ヲ十文字ニ元鞍ノ根ニ納前輪ニカヽリ膝ヲツラミ強ク密ヘシ此ノ手ニテ鞍ノ組違ヘ手ル耳ニツノ間ヨリ向ヲ見ヘシ秘カラ落ニ奇口傳一文ニ公ハ落秘一天ツライヨミ秘上足落口傳岸石カラ落シトハ十死一生ニ落ス四足ハミト
云口傳

一 自落之事
馬一ミニ生アヤウキニハ乗ウツリシテ落口傳

一 最後之鞁之事
馬ノ首ヲ切傳
一 肝強馬二箇條之事
切手綱二シテ右鞍ニ引通シ行口傳ニハ行方通シ糸口傳スリ鞁口傳
一 鞁七箇條之事
一ニ蓬莱 二ニ表目 三ニ三日月 四ニ未登 五ニアサリ
六ニ平首 七ニ関璽 以上七箇條秘ノ鞁傳
罕ノ引鞁 イカリ鞁 忌ノ鞁 口傳
乳鞁寸法二尺口傳 常ニ七陳ニモ 南天熊柳 竹根ノミ竹根傳 定傳 一取柄皮巻
右二條流軍馬之捨有壹箇條極秘抄ト云合

極秘傳巻條之
一 修羅綱羽之手綱之事 并 常之手綱之事
壹丈二尺口傳 壹丈六尺口傳 常手綱口傳
一 貝登鞍馬ヲ乗様之事
弓モツクヽトスルニテ浄見口傳 古ニ口傳
一 束箭馬ヲ入ル事
水金ヲ吞ミ程馬ノ身ノ目ノ下鼻先ニ并ニテ手ノムミニ在ウツ口傳
一 馬職ニ行ナリ事
キツ神ノ方ト向カノメチクノ川ヲ丘ノ手ニテ乙右ニテウラヨカエニ奇口傳
一 馬上太刀討秘傳之事

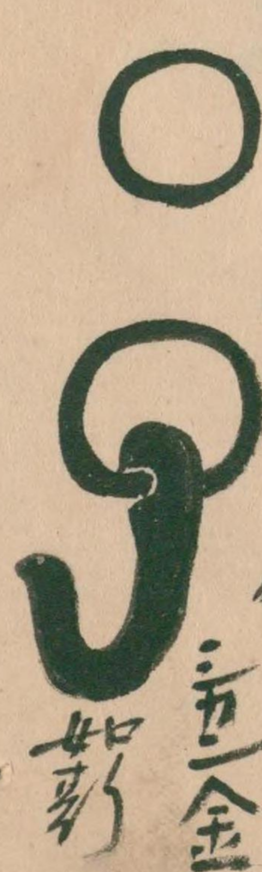
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

一 後苅ツキ乗様之事
ハキノ下ニ皮ヲ手ヲ綱ヲ掛手鞍ノフサヲ後ニハサム鐙ニテ突ル時ハ突ルゝ方ヘ
馬ヲ廻ス大力ニテ討ルゝモ同前
鞍ノウナヲミスカシ行ハチ綱ニ取鐙ヲ強クフミカケ通ベシ

一 霞之鞍之事
口傳秘

一 岩石乗鉄杏之事
爪ノウラニ 沢山ニスリ水杏ヲウツヘシ口傳

一 鞍蛍之事
口傳亦小間カキヲモ用ル鞍ニ糸ヲ手上下ニハサミセンニテ留無之口傳



五一金
如影

一 甲之事
馬ニ乗内ハ前輪ニカケ可置

一 未之刻火縄ニ而見様之事
口傳 紙ニ三里ニ三テ見様有リ

一 川渡火之事
火縄明松ニ而行ニハ寸三持傳

一 眠薬之事
天南星 百足 桐葉 白且 木綿実 丁子 沈香 其外ノ薫
録石 石末用様口傳

一 馬兵根丸之事
附 馬ツカレ之法之事

山茱 萱草 黒イモ 檳榔 焼塩 豆粉
右ホシイノリニテ丸シ一度ニ拾丸日ニ三度用肉ニ房ヲツカムス法口傳
遠行ツカムス方口傳

一 繋馬之事
百里ヲ一時ニ乗テモ息キレス口傳 薬 口傳大秘一子相傳ト言
千子二人傳

一 馬息合之事
八三ニ青竹ヲ繋テ吉鼻紙ニ小便ヲシメス繋テル秘傳
赤丹 上唐國 良香丹 極秘傳口秘授

一 道具世話之事
逆鎧 剝 鞦モ切レ 鐙ニモ無ハ口傳 下坂口傳 登坂口傳

一 綾羅前之事
陣中ニテハ大豆ヲワルカシ飼口傳 其前寛トト能物ヲ飲口ヲ洗古ヲ出シ塩ヲスリヲキ出ル時又洗出ル

一 道具口傳
口授

以上拾九箇條極位許巻也

国立国会図書館 タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

右此一書當流軍馬秘傳之巻依ニ懇望ニ爲貴殿
令傳授畢 非其仁ニ可被禁漏洩者也

大槻伍良助藤原清蓮

于時明和四丁亥 孟春吉日

安東甚三郎殿

二條流軍馬秘術聞書

市川成能藏

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

二條流軍馬秘術聞書

一真草行鞍之事

真ノ鞍ハ四面ノクラトスルテクラノ真中ニ居リ四面ヲ見渡シ鐙角サキヒラキ鞍ノ上ニテ四寸体ニナルコトク心得ヘシ四面トハ四方ヨリミテミク、ナキ所ニテ四面トスルナリ

草ノ鞍前クラニツキ集ナリ

行ノクラハ後クラニツキ候マトス

一手綱上中下之事

上中下ト云ハ馬ノ口上口ナラハ上ヘカケ中口ナラハ中ヘカケ下口ナラハ下ヘカケ候コトス

一足手綱之事

足手綱ト云ハ糸ニテノ轡ノタナハナカ子ヨリ通シ鐙ニツケテ用ユル也コレハ手ヲハナシ足ニテノ馬ヲ廻スコトナリ

一居木ウツリノ事

居木ウツリハ左右ノイキヘウツリ〳〵テノルナリ

一立鞍之事

立鞍ト云ハ両足ヲミナ〳〵メ前クラノキニナミニヘアミヨカケ後クラノキテモニヘアクドヲカケテツキタテアカリ手綱ハ胸ノ通リヘ高クモテ候ナリ何時モ手綱ハ軍タツナニイタシ居ルナリ何カ見ルセツナトノコトナリ

一浪枕之事

浪枕ト云ハ地ニアルモノヲ拾ヲ浪枕ト云馬上ニテ拾之マツ鞍ノ前輪ノ上ニノ升カリヲ後クラノスワマカタヨリトウンと前クラノ四王手ト結ヒ通ス

左ノ手ニテ手綱ヲヨサヘ右手ニテ馬ノ前足ナカテニイタヽ橋ニテ下ルナリ拠テ指コトナリ

一せゝ轡之事　歌ニ おふさうる関ハ谷ハとみけみへて つなうぬ節のうれしゝき

芝ツナキト云ハナニモツナキヲクトコロナキ時用モノナリ マツアブミヲモカイヘカケテモヨシ 手綱ヲ塩手ニ結テモヨシ 又手綱ニテ前足ヲユウテモヨシ 又手綱ノ前足ノ間ヲ通シ後足ニ手綱結テモ前足ノ所ニテ鼻ヒ子リヲイ手綱ノ乙タ通クル也子シリヲクモヨシ

一ツ橋乗様之事

細キ一枚ハシヲノリツノハシノ上ヨリノリモトスコトハ マツ右ノ方ヘカヘシ候ハヾ左ノアブミヲ前ニ出シ右ノアブミヲ後ノ方ニフミモトシ左ノ手綱ニテ加リ上体ニテ右ノ方ニ返スナリノリモトルナリ

一細橋渡様之事

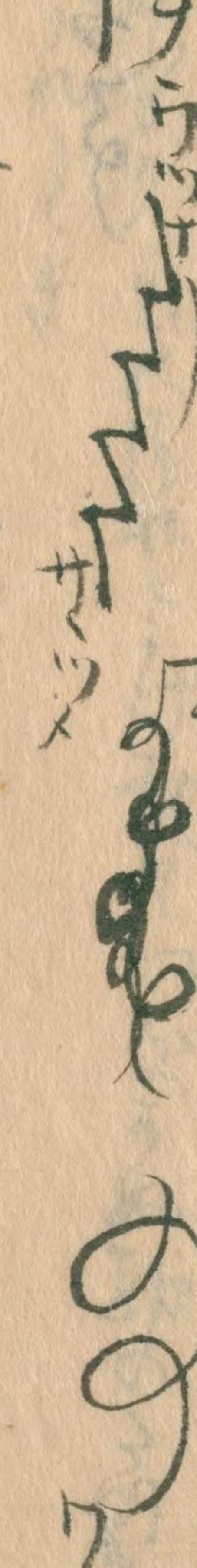
至テ細キハシヲハ乗時ナリ マツ鞍ノウチニユツタリトイタヽ遠山ヲ見渡シ乗ナリスナヲニ行モノナリ

一細道ニテ乗下ルヿ

至テ細道ニテ下リ時ノヿハ マツ前ニ下リ時ハ首ニノリテヨナルナリ ソノ口ヘハ鞍ノ後ヘ手ヲカケ右ノ方ニ下ルナラハ右ノ手ヲ太ノ後ヘカケ左足ヲ右ニ廻シ下ルナリ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

一 細道ニテノ乗遠様之事
コレハ甚三ノ細道ニテ向ヨリモ馬上ニテ来ル行違ナリ 先左ヘヨケルニワ右ノアブ
ミカニラミニ足ヲ馬ノ首ニカケノ乗テ[illegible]千カラミニ左ノ手ニテニリカイナク[illegible]
メテナト刊馬ノ右鐙ニ向ノ人ニ乗カケロトニ云テ左ノ深仰ル所ヲ手伝ニシノ左ト[illegible]
ムナ三テ向ノ馬ノシリヲラウツナリ



一 早道乗様之事
コレハタヘズイキヲ入ツム乗行云 先殴ニ乗行ノ息ガ候ハバ サクウ
メテノリ 又ハワヲカケナカラノリ 又ハノチトリニノルナリ

一 遠道乗様之事
コレハ三日モ四日モ乗リ行時之 先右ノ足休メ冬手ノ向ハ右足
ヲ前ノクラノ左ノテカノ四テカ手ニ足ノ大ユビカケム乗ルナリ 左
右互ニ日ゼンナリ

一 馬上太刀討之事
コレハ手綱ヲ左右ノ四方ノ手ニ張テモヨシ又コシヘ結テモヨ
シイワレ太刀討ニタクミナラメヤウニイタスナリ

一 馬上鎗持様 並心得之事
馬上ニテヤリヲ持ニマツノナカヲカハノ向ヲトウシハサムナリ

一 馬上弓持様 弓張 並ハシ様之事
マヘニ弓上ニテヨクヲモチテモ弓ノ後足ノ爪ヘモトハリヲカケ
ロヘワルヲタクワイ張ルナリ ハヅシニモ日ゼン 亦

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

一馬上弓射手綱之事

一馬上靫台様之事 朶

ウツホハ下ケザルヤウニイタシ朶ナリ膝ヨリサガラザルホドナリ

一馬上長刀持様之事

長刀ハサカサニ持カ亦下双ニ持ハアブナキ故ナリ

一馬上手縫手綱之事

コレハ手綱ヲ左手ニテ胸ノ所ヘ高クトリ左右ヘカラミタス
キニ用ユルナリ 鎗ヲ遣ナトニ用ユト之

一楯無指截之事

コレハ楯ナキセツ用ユルニアヲリトリタテニスルナリ

一鑣折タル指截之事

コレハ左右ノサヲ、左右ニテカイ用ユルコトヽ

一三階切タル事 指掛之

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

コレハキレ名ヲ二ツ三ツキ用ユル

一逆鞭切ル事

コレハ鞦ノ下リヲ後ノスワマカタヨリトウシテカラカヘトヨシノ穴ヨリ通シクヨカシラヘ結ナリ

一鐙無指揆ニ吉又

コレハアヨリノヨハ、千カラカワ通ノアヨリトヨシアシフミカケルニヨロシキヤヨニシテ用ユヨリ通シテカラカワトヨシノアヨヲヌシリカラノ下ヲスワマカタヌシリカラノ下ヲスワマカタヨリ通シテカラカワトヨシノアヨヲヌシリカラノ下ヲスワマカタ

一忍行時心得之事

コレハ馬ノ舌ヲ糸ニテ結声立ヌヤウニ孔ヲ細ク

一無音響之事

コレハヤリヒカヲ結ヨナリ

一鞍下之事 自然カミ吉又

コレハクラノシタヘクケヨアミスキテ鞍カケ馬痛ニテ止ムヤリ然カハ糸口ハリノクヨシライ馬ノ口ヘ用ユヤリ

一軍馬之心得之事

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

一馬俄ニ手張タル事 付 手過タル馬乗様ノ事

馬俄ニ手張タルト云ハナニカニ痛キトカ何レ驚ナレハ能見テ
サホニテモ用ユトカ何ニヤラウスヘヲ見ル事 手過タル馬ハ
三角ノ金ヲクラノ間ニ挟ミ乗ナリイタミニテアバレサ
ルナリ

一陣幕出入付團扇之事

コレハ出ル時幕ヲノムモヲ込テ上テ出スルナリ 敵ト乗
入ル時ハ幕カラミニ乗込クレヨリ大、アミテ乗ルナリ
團ハ四月ヨリ九月迄用ユ 扇ヲ以テ敵ヲカヘス時ハサキニ
テカヘス 跡ニテカヘスニハモトノ方ニカヘスナリ

一水呑卷之事 付 水ノ之事

馬數見極秘傳聞書

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

馬秘見様秘傳聞書

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

馬形見様秘傳聞書

八條近江守房繁 右傳ニ曰ク遠見テ大ノ近ク見テ小ハスシノ馬ニ遠ク小近ノ大肉ノ馬ニ遠ク肉ヲ見肥ハ骨ヲ見ント思ヘ而ニ前ヨリ見テニワトリノ鳴如ノ後ヨリ見ル二犬ノウツリマルコトク成ハ吉馬ナリヘンシンニ辻マクヘシトニ云ニ五ニ見所ト云ハ骨高ク二ニ肉千イサクニ三ニ面ハ岩木ノコトク

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

長ク中廣ク上ヘ下ホソク四ニ頭ハ鳥ノ如ノトク五ニカ
タハ女手ノコトク薄クヨヨソヤカニ背ハウナキノ背ニテ
渡リ大ク六ニ胸ハカモノ居ル如七ニ腹ハカニノ腹ノコトク
平ニ廣ク八ニセリ節ノ太ク廣ク九ニ蹄ノ堅キ支ハ
石ノコトク是ヲ十ノタトヘト云ナリ。六ニ千里ノ馬ト云形
ト云々一ニ竜ノ出テ目平ニ背太ク腹廣ク骨重リ
ク ヲ備タル ハ千里ノ馬ナリ二上ヘ下ヘ口ノ内紅
ニ光リアルモ同シ三ニ耳サキ斂ノコトク成ルモヨシ四ニ耳當
ナルモ同シ五ニ耳三寸三千里ノ馬ナリ六ニ聲結ニ辻有ハ
千里ノ馬ナリ七ニ後カタカシ犬ノコトクカハノメテ小使ノ如ク
千五百リノ馬ナリ八ニ胸ノ下廣ク一尺ナルハ三千里ノ馬
ニツカレヲシラス九ニオト歯ト云ルモ事ナシ一寸有ルニ四百里ノ
馬十ニ腹ノ骨後ヨリカノ〳〵ノ十有ハ大吉十一ニ百里十
三ニ大馬ナリ行所ニ難有リ是カノ〳〵ルニヤシク折骨ノ上
ヲハノクナ一ニセヤ廣ク服七ロケメルハ日ク走ルト云云
七ニ目ニテ馬ノ善悪見ルト云々一ニ目ノ内糸スシ人見ヲ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

ツラヌキ名ハ五百里ノ馬同名筋上下ニ通リ人見ニ
童子ニ人見得ハ千里ノ馬ナリ二目クボノ内スシ
及長キ毛有ハ五百里ノ馬ナリ三眼大キニノシツニタ
ルハコミ馬ナリ臆病ナリ四ツ目下リチイサキ馬ハ物ヲ
見ル夜討ニ不用五ニ目有所ニ牙大ニウキ名ノ人ノ
心ノコトノシ大キニヨキ馬トコレヲ云ナリ六ニ目下リテ
丸ク泥名ハ人ヲ喰七ニ目シリタカクツテ丸キハ男健ヲ
テカケ足ヲハヤシハニ目丸ク高ク角ハ物ヲ見テ驚ク

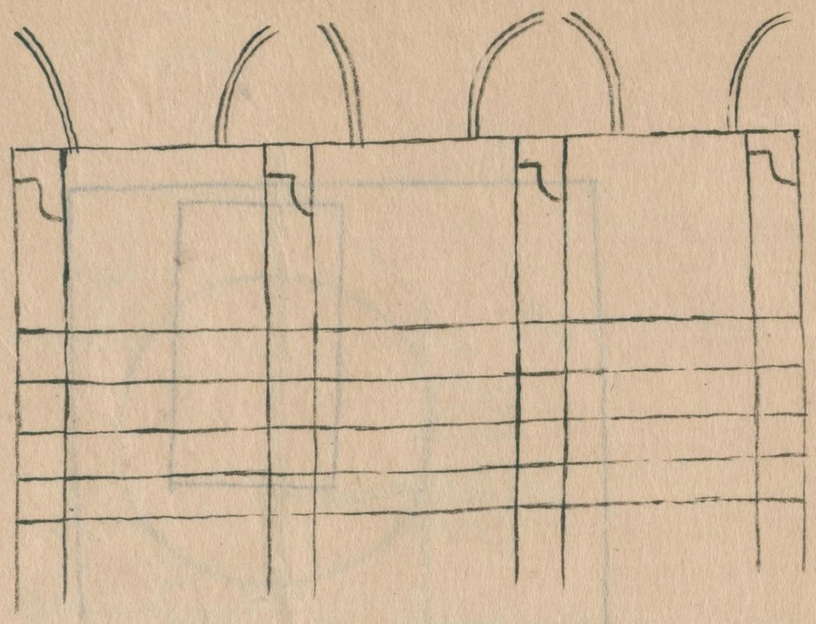
八ニ馬命長短ヲ知ト云々一ニ目ノ内ニ五色ヲ具ヘ目クボヘノ
下ニ辻有ハ命十二三白黒ノ上ニ辻玉ノ如ク命長シ大ノ
字ノコトキハ二十小ノ字ノ如キハ十八四
ノ字如ハ八ツ宅ノ字ノ如キハ七ツ三ツニ目カラノ内ニ毛有ハ四
十目クボノ下ニ辻有ハ十八四ニ口ノ内白ク光ヲ見セテ
鼻宛ニ火ヲ見ルハ光命有若駁斑ナルハ命ナシ
効ニテ死ト云々一篇々心得ベカラツ
繋所ト、ノイテモ心ノ調ノハナルハ悪馬ニ能所ニ

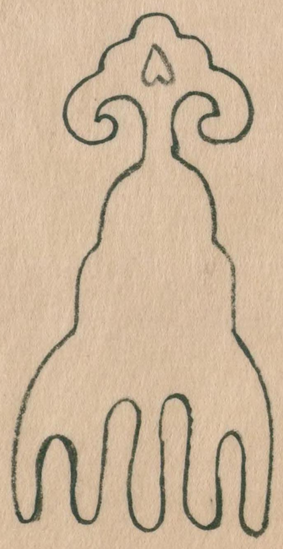
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

三所有テ心ヨリ調ハ上ナリ悪所ニ三所有七心
能調ハ中形悪ク調テ心上ナク十九ハ下形ヨク
調テ心悪キハ見馬トス凡ソ此
右共九ケ条八條流大事（秘）密傳ニ弟子ノ内ヒ
ヨロソカニ傳ヘカラサル者也

古先生曰當流軍馬者筒條巻一本許之巻ニ而
傳授未聞書等モヌ答ヘトモ云々然ニ近来其古実
傳アヤマツテ有相違ハ天下ニ宝矢フカ如シ故ニ
其ケ條ノ抄ヲ記軍馬秘巻トゴウシ先師ヨリ
段々傳来ニヘ猶秘傳ヲ口授ニシメ此書ニ漏ス
清連共秘ヲ傳テ以テ李文下ニ再録ノ号當流
極秘抄忍者大極秘傳ニ堆旦此書非其人去
第子タリ共授ル事ナカレ

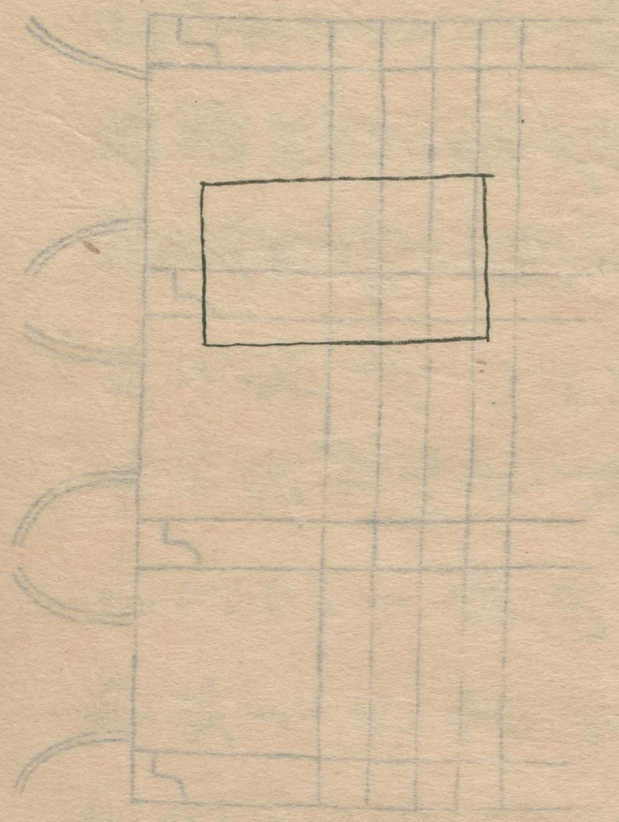
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

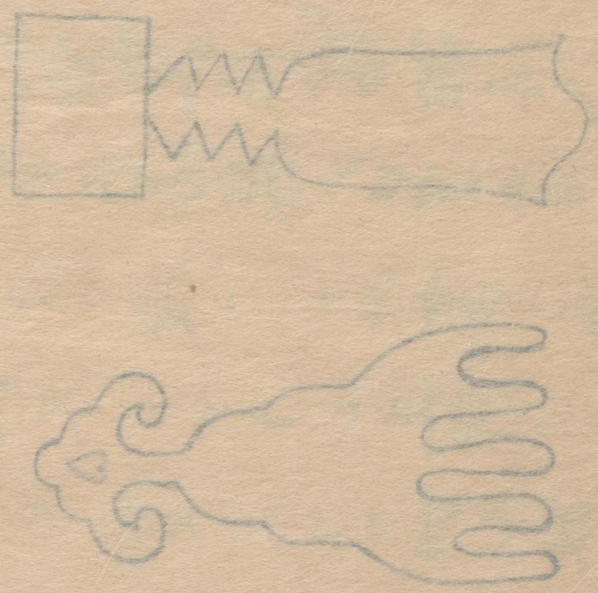


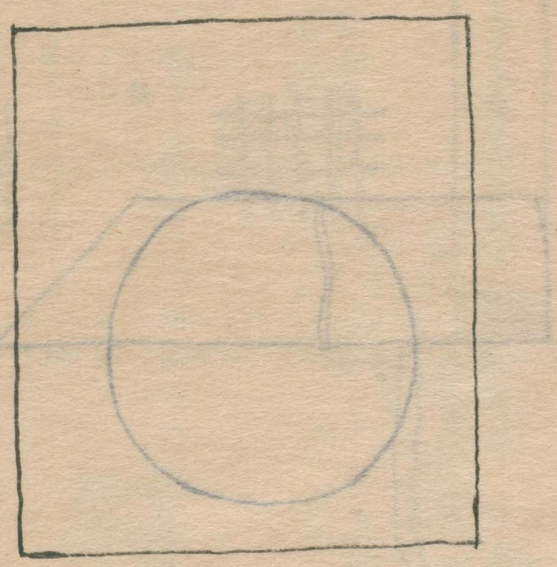


国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

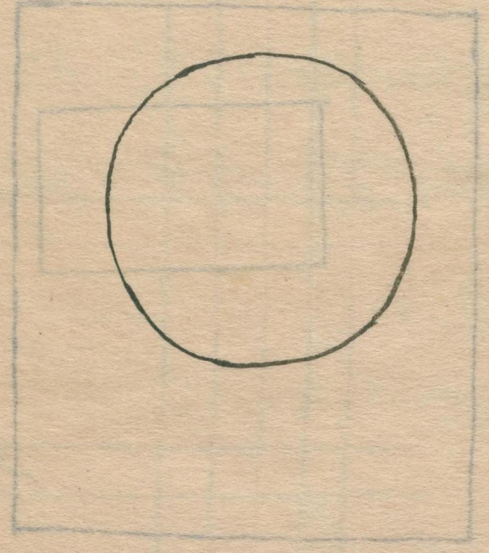
ガラス使用

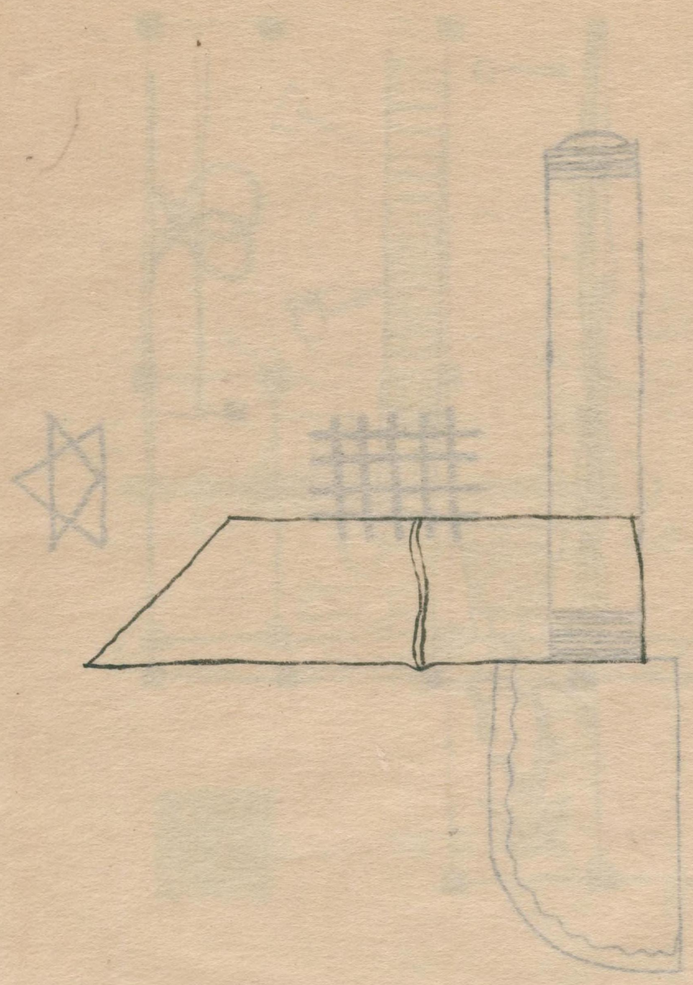




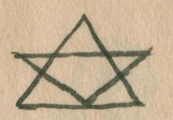


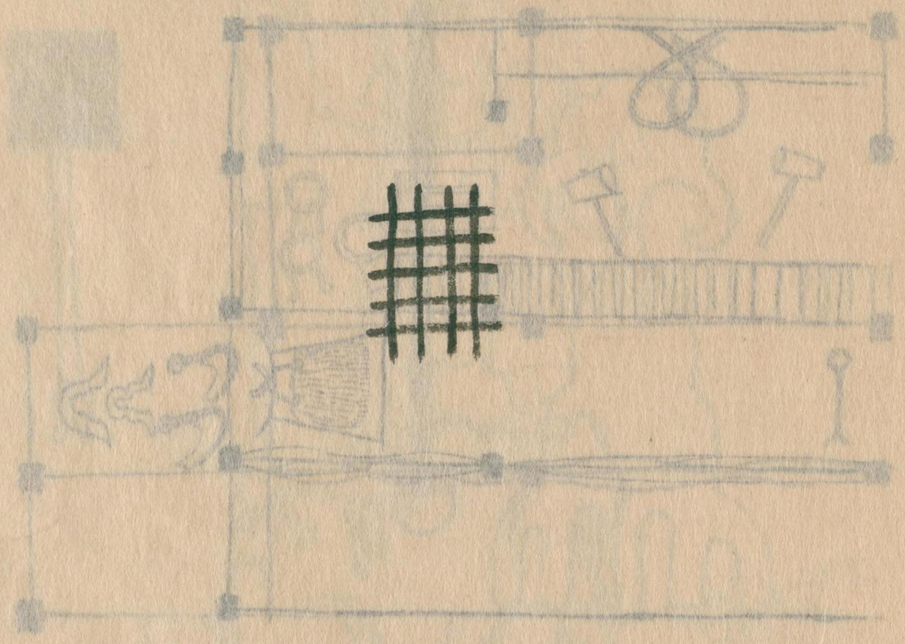
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

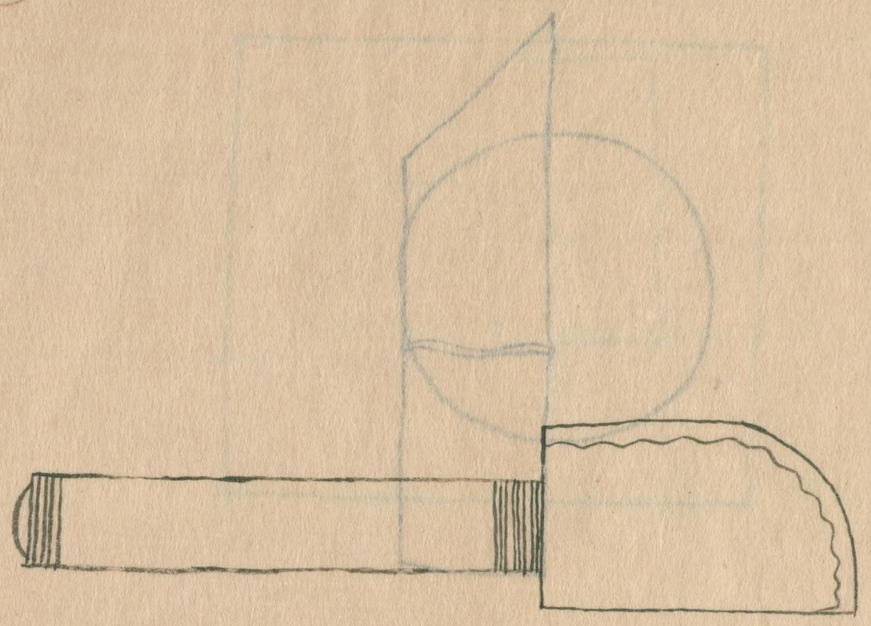




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

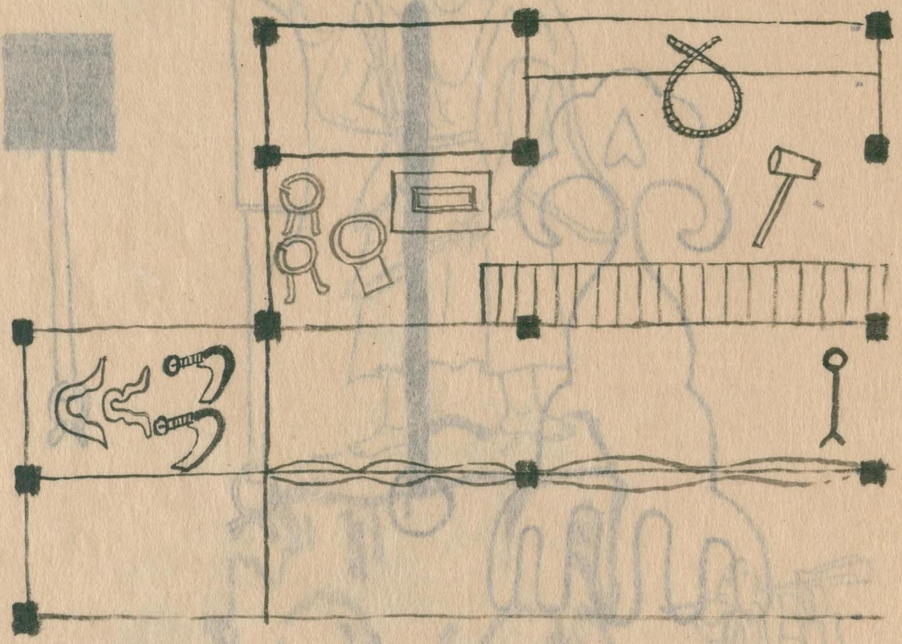


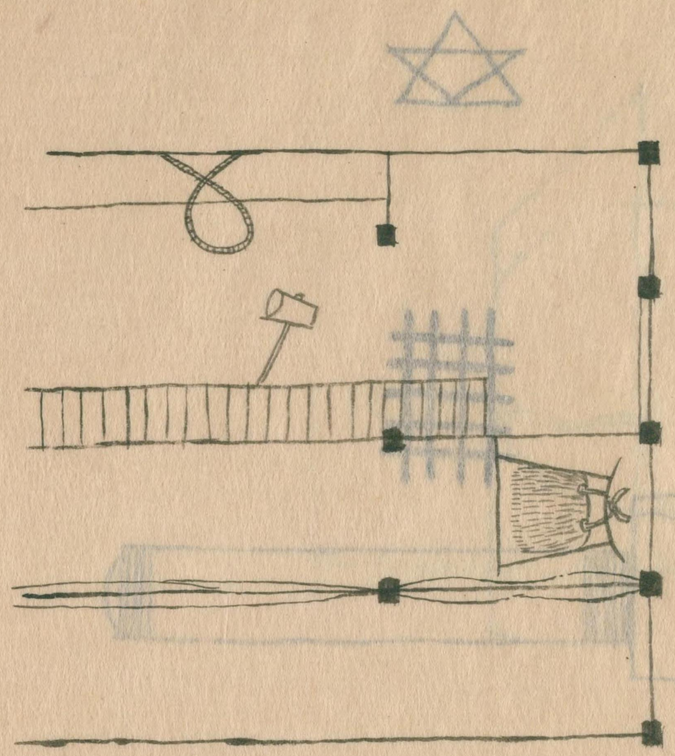




国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

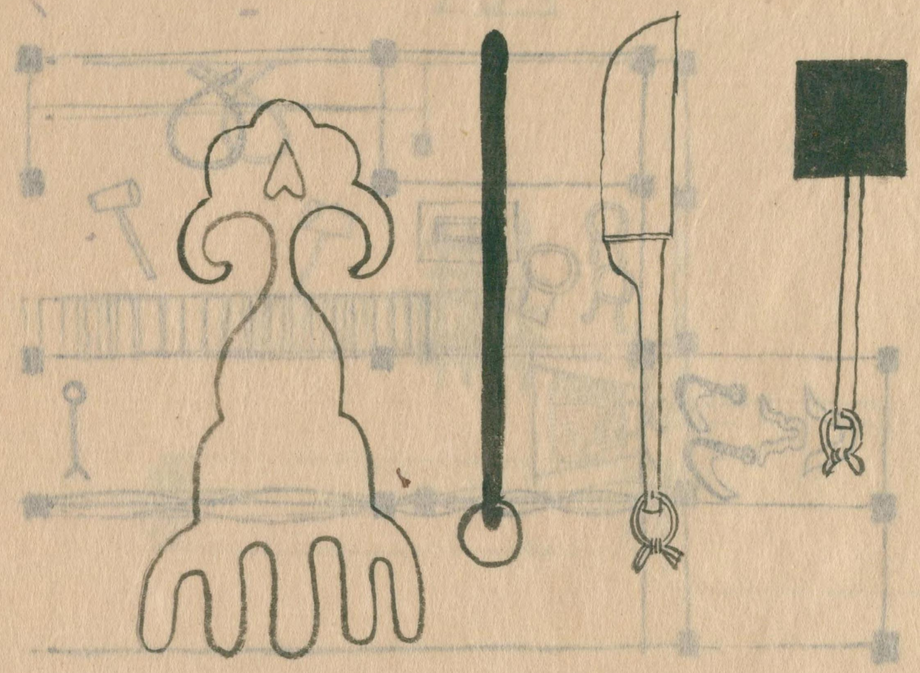
ガラス使用





国立国会図書館　　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

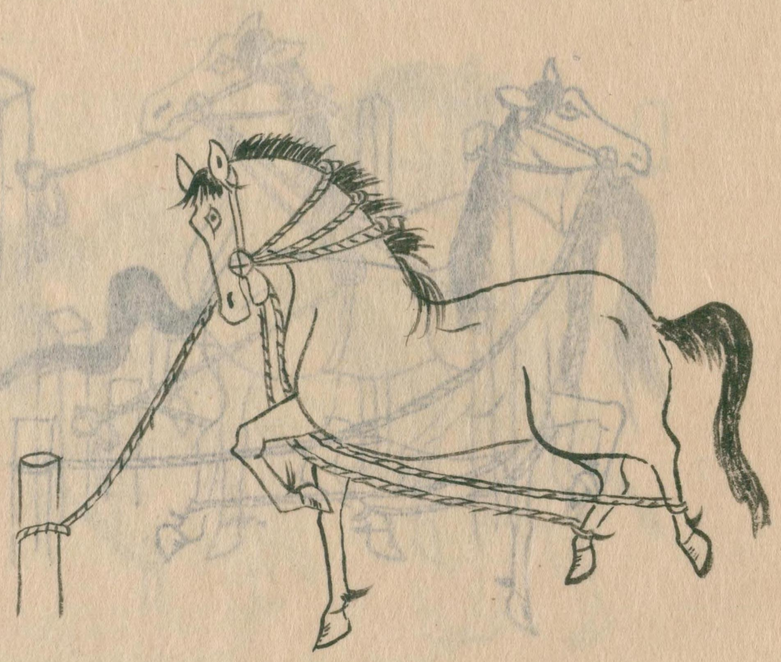
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

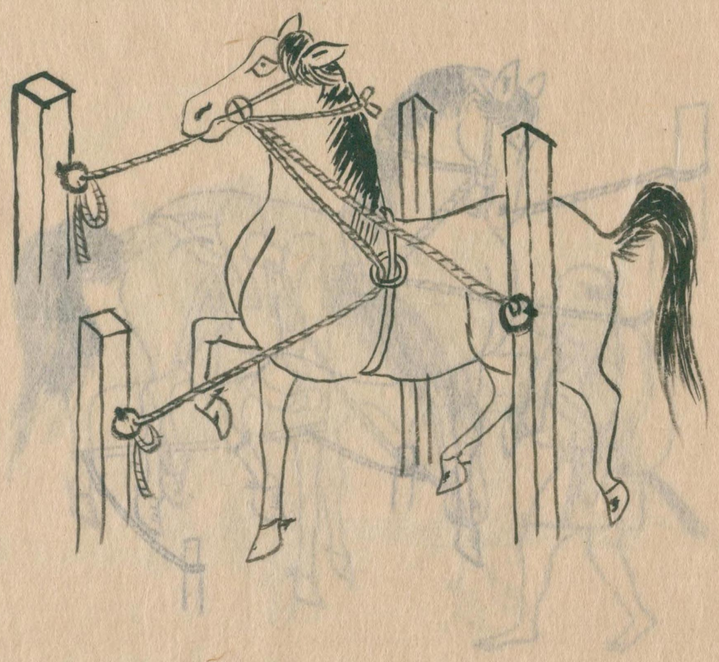
国立国会図書館　　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用



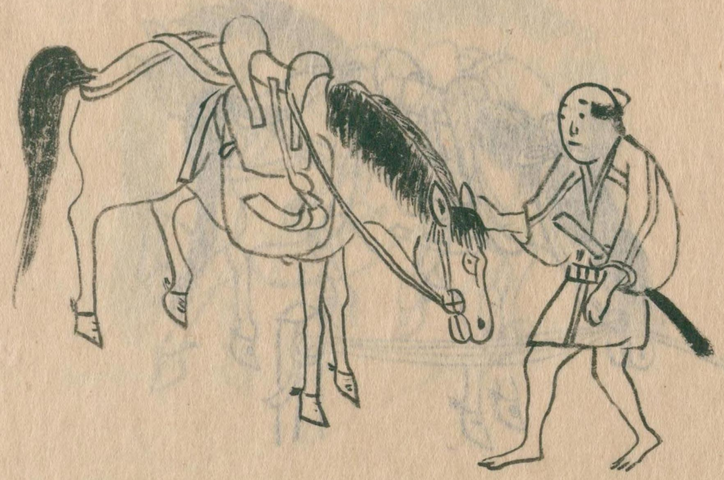
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

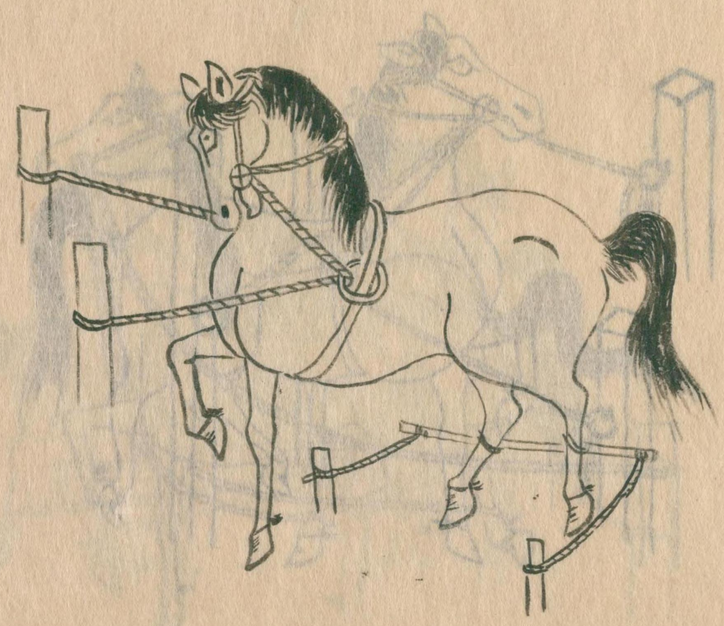
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

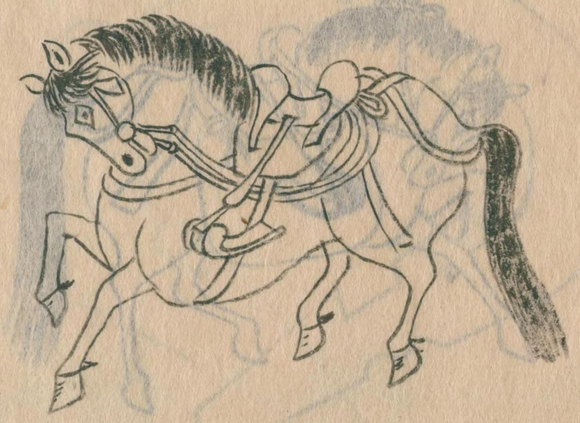
ガラス使用

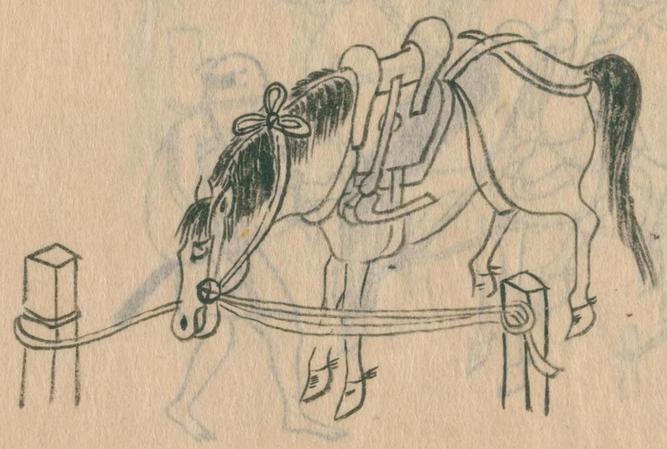




国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

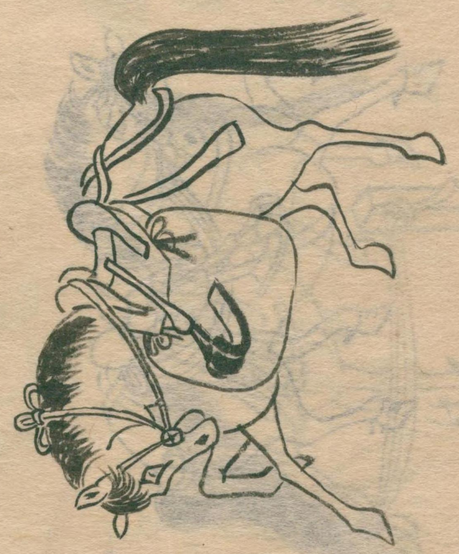
ガラス使用

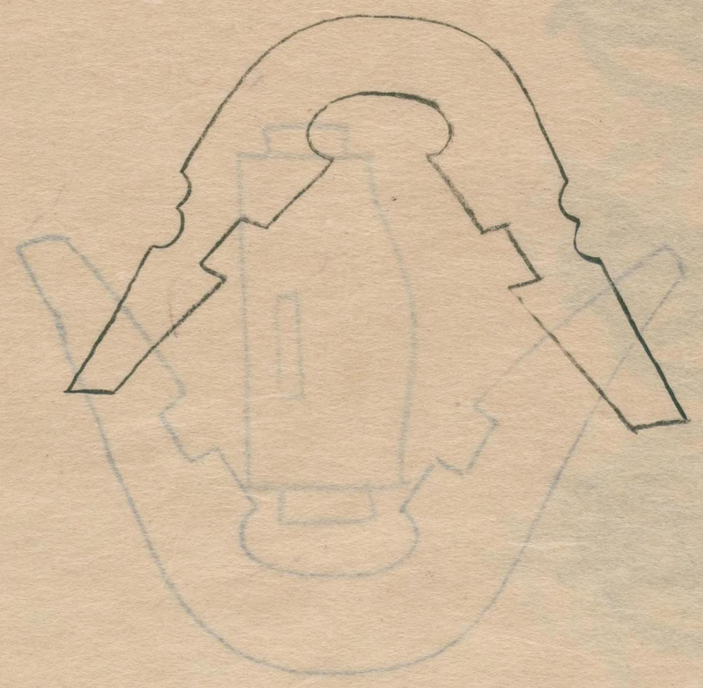




国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

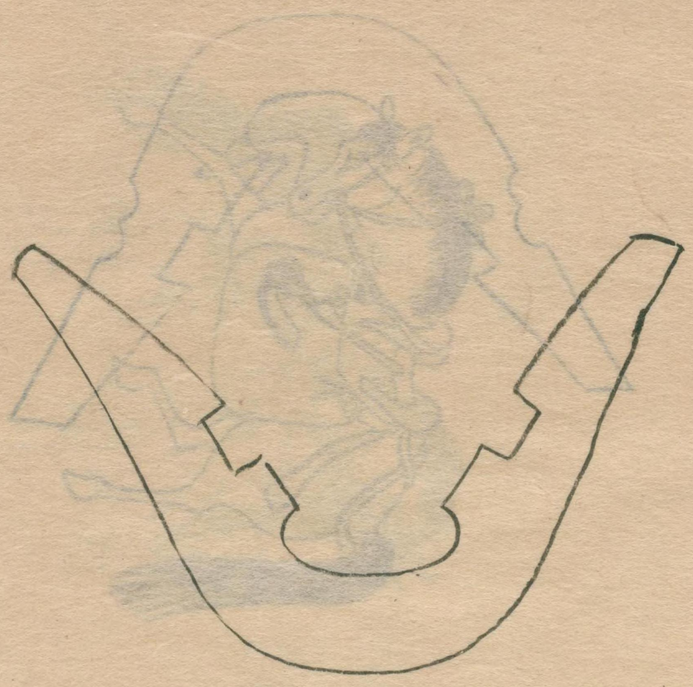
ガラス使用

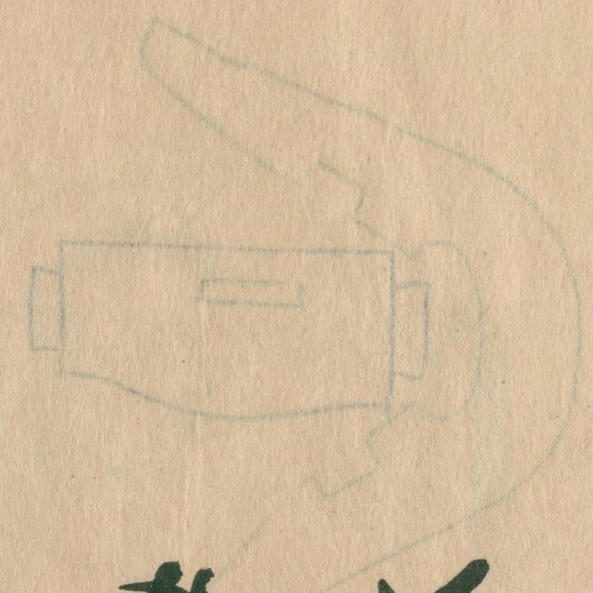




国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用



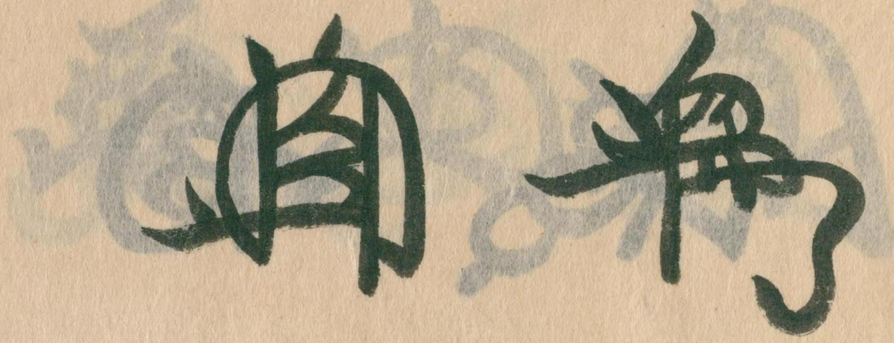


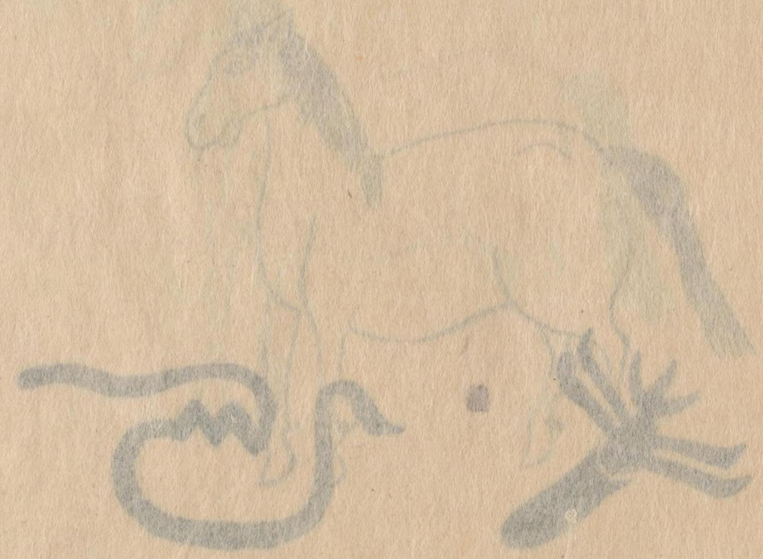
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

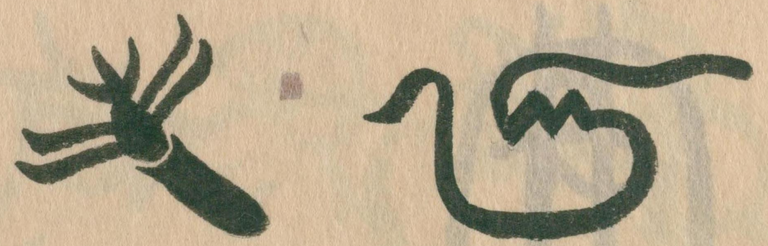
ガラス使用





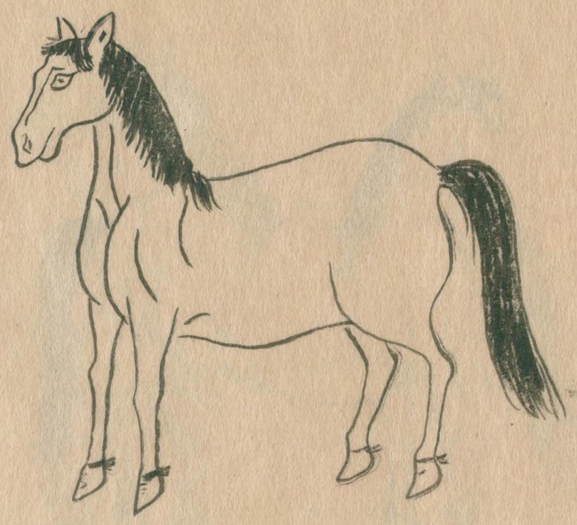
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用



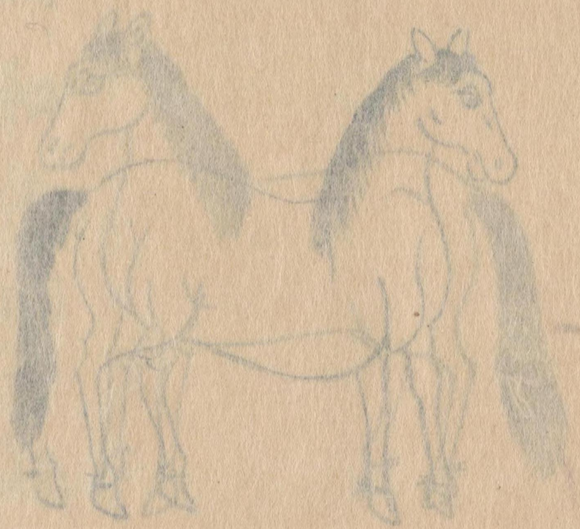
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用



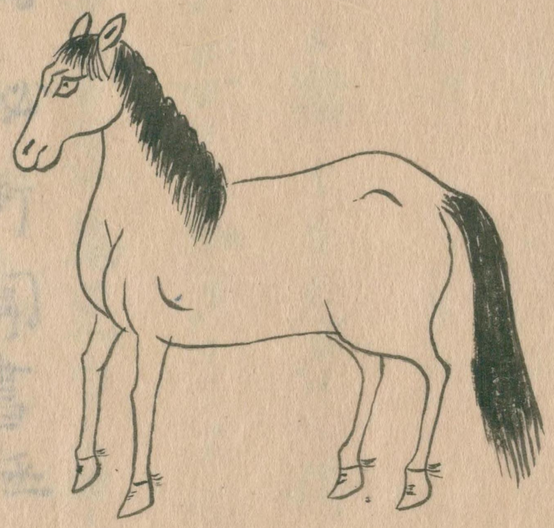
国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

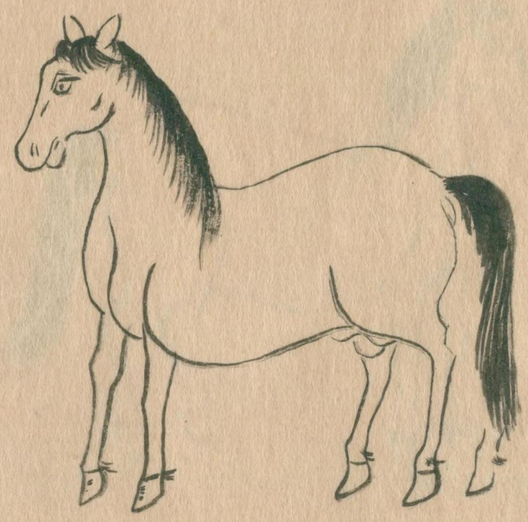
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

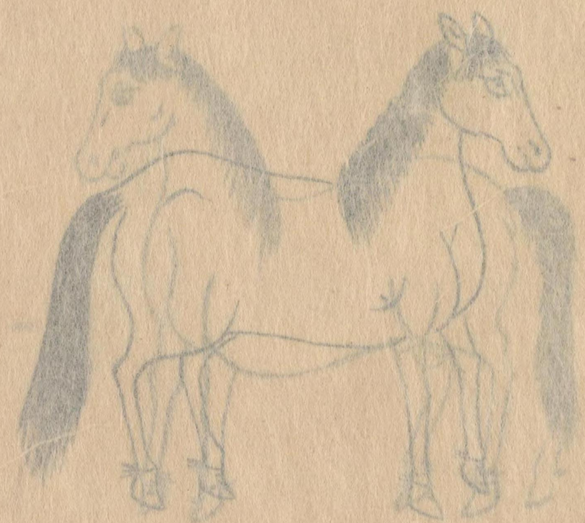




国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

二條流軍馬秘術聞書抜秘抄



国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

二條流軍馬秘術聞書抜秘抄

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

二條流軍馬秘術聞書極秘抄

一真草行之事

真ノ鞍ハ則四面ノ鞍ナリ左右心得有ト云ハアフミノフミ様有調子ニテ委ク見ヘタリ except 除皆上ニ同シ

ハミヲヌク支秘事ナリ馬口ヘツムガイタムカイスレハ其方ヘ首ヲマケルモノナリ其レハ痛ム方ヘクツワハミヲヌクヘシトヘ

亦四面ノ鞍ト云ハ前後左右ヲ云ナリ亦鞍アタリ
亦立ルキ逢ト云事ハ常ノ事ナリ

一手經上中下之事

真ノ手綱ハ兩露ニトル也外ツユナリ
軍手綛ハタツナハノ十文字ヲ右ニトリ左ニテ一節ニユキ
タラヘ結付テノル露ナシニ食指ヘアケテノル也

一會尺 鉤合ヲ云事也引ニモアラツユルスニモアラツキヲ上下ニ成ス馬ノアク合ニツレテノエ尺ナリ

二 突エ尺 此方ヨリ手元ヨリクレテヤル事

三 打エ尺

四 切エ尺 キリ付々マアツカウ事ナリ

五 扱エ尺 此方サツイ立テアツカウ手ノコ々々ノ事ナリ

エ尺五ケ条有右五ツノエ尺ヲ變化シテ乗タテ等ニ用ルナリト云

一足手經之事

傳ニ云弓射ニ用亦ハ皆ヲ行カラ作ル時モ用ルトニ鉄炮ヲ放ツニモ吉トナリ

一人ノツカレヲイトフト云ハ馬汁ナクトキナトイタマヌ方ニヨル事ニナレトモサシテ用ユヘキ道理未考 未ノ自落ト云ニ同シ一

一居木ウツリ之事

馬セニハ板馬セニヲ用イクルカヨシ板馬セニノ穴イカニモ
大クスヘシ小使ハ其穴ヨリスヘシモアヲリ不用妻ハ一ニ不
静ノシテアシ、川越ニハツ、マルトロツクナメシ皮ヲ用ル
妻妻一ヶ所ト云云

一一ツ橋乗様之事

橋スマイ乙馬ノ額ニ伊勢方ト云字ヲ書歌ヲヨムト云々

右左ノ後トヲトロクヤ前トテモヲトロカツユケ波ノウキクモ

一細橋渡様之事

馬ヲ細橋渡スニハ手綱ヲナカクシテ先ヲヒカセ馬
ノ尾ヲニカイテ可渡ヶ所

一細道乗下リ様之事

スデムヤウツヘシ是ハ人ノ馬ノシリヲウツ妻

一早道乗様之事

息ヲスル馬ニ針ノ妻

吾ノ先キニ如此而

方二三所ツヽ六所ニ釘スヘシ

一馬上太刀討之事

手縄ノ大事弓射ル手縄ノコトク亦一尺八寸斗ノ水付

二クサリヲ入叓ナリ

一馬上弓持様之事

弓ヲ前輪外ムナカイノ引渡ニサシヲキテノルヘシ

弓ヲ馬ノ首ヨリ廻シ本ハツヲ左ノ手ニテ持末弭ヲ右ノ方

ノ下ニナシ右ノ手ニテ握ヲ押弦ヲ口ニクワヘ張リ弦ルヲ右ノ

一手ニテトル時足ヲ以蹈張弦ヲカケル也ハツス時

モ同前

弓ノ本弭ニ細竹ヲ二寸斗ニ切是ニ糸ヲ付偕

一馬上弓射手縄之事

甲ヲヌキ服ニ付イルモミエボシヲ着甲キテイル時モ

フセ弓ニイルトナリ

手綱手縄ヲ用ユル叓有リ是ハ矢ヲ放則太刀討

ニウツル二吉トナリ

一馬上敬ヲ付ル様之事

若武者ハシリ下リニ付ル武者ハシリ上リ付テ武者振リ吉

一馬上長刀持様之事

鎗薙刀持ル時障泥緒鞦ノ組違ニ立置キ

ル事ナリ

一馬上ニテ纔ニテ經之事

長刀ヲツカウニテ纔ニテ綱ヲ用ル亡吉凶有リ

一逆組切タル指様之事

夜馬セン中ニ宛ヲ明ケ用立馬ノ背ノ息ヲ出ス馬ノ足労レタル時ル事ナカラ小使ヲシテ宛ヨリ馬ノ足ニナカシカケルナリ

一鐙壺指様之事

軍中金アフミヲ用立忍時ハ木鐙又ハ草カ布ニテ包ナリ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

障泥ハ軍中ニハ練ヲ用ユ沼田ヲ渡ニモ障泥ニハ泥水
附モ疲ルナリ緒ハ六尺ナリ又ハ四尺ト云

一無音之轡之事

轡ノ壺左ヲ轆リウト云右ヲ引手其外タテ本金龍
頭ツホタスケノ金クハミ輪ノチカヒカヽミ
△葬礼ナトニモ用ユル之　△イハクハユル之　△イナヽリハ函之

一鞍下之事 付リ 葛カ之事

シコム馬ハ黄柏明礬ワカメ三種ホメ布ヲ以鞍下ニ
間ニ合ヤウニホフトンヲ拔綿ヲ入右ノ藥ヲ馬ノ背ニテ
タル通ニ沢山ニ入鞍下ニカケテ乗ヘシ

一馬餓ニ手張タル事 付リ手ニ過ノ馬乗様ニ直

ダヅキシテアレル馬ニハワカ齒ノアカヲ舌ト目ニヌル
ヘシ

一沓巻之事 付リ 沓之事

沓ニ馬ノ尾白水ニ二夜ヒタシウテハコマカニサケルヲワ
ラ紙等ヘマシヘツクルモ吉ト云人馬共ニウラシキニハ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

トノ皮ヲ用ヘシ竹木ニヨシカツバトモニトヲラストニリ
皆スリノ工ロ扨原ヲ十八枚カケ八大坪流ニ歩
リ別傳ニハ八枚ニテ吉トス掬流一騎傳虎ノ
巻出タリ

皆摺ハ大躰四寸三分位ノタケニ周リハ馬ノ太ミニヨル
ナリ但ハゼメヘ

一前後流腹帯之事 (オ尺口傳之事)

前腹帯前鞦ノ塩手ニ細引ヲ付前足ノ内ニテ組
前鞦ノ右塩手ニ結分置出ル馬ニ六
後腹帯ヲ足ヲ前腹帯ノ如ク結ヲキ踏馬吉
流水腹帯前足ヲ面々ニ結置カン強馬ニ吉
二重クリノ腹帯ヲ用細引吉 口傳
馬ニ廻シ鞍ノ上ヨリ四重ヲリ

馬面前後一騎ノ敵ノ陣中ニカケ入時可用カン
強馬ニ用ヲリ
出陳ノ時先鋒ニヲリ口ヲレハ馬上ニテ立腹切ル

ヲ吉ニ返スナリ右様ノセツハ用ユルナリ

但 ミロ又ハ棄出シテヨリハヨロシトス

一馬上組討首取様之事　首カキ刀指様

今ヲ引受下ニナリ落様ニ一刀ナスヒサカシラニテ人ノキヽニアタル

左ノ後ノ塩手ニ結付ル右ノ乳ヲ成位ニ引上ケ結付 具糸ノハシヲ首ヲノカケ前ノ右塩手ニ結付ルナリ若揖手ノ敵ニ追懸ラレル田ロハ右糸ヲヌメ付首ヲタクヘリ

殺ナリ亦ハ少ラキテ歩マスル時ハ右之ヲ引鐙ノ下ナキニテケ付

カクレカト云時ハ何ノ木ニテモ用 四寸ノ鞭ト云寸ハ木(モク)(ムチ)樫(ケ)ヲ用ル

一深田棄様之事

フケト云ハ足入谷地田ナトノ類ナリ大フケハ龍馬モ渡ル事ナシ

木(ミク)樫(ケ)手一束ニ切用ルナリ

一川大溝飛スル事
大溝ト云ハ三間半位マテトイヘトモ二間半三間ハ越
安シ名馬ニテモ名人ハ四間之程（間数ハ一間ヲマタキノ事云）
ハ子付ト向ロノリヌケル時ハ後鞍ニアタルトキリ上ケ
ルト一ツニノリヌケルナリ
所ニヨルト云事ハ飛越ルトケタテヽノリヌケルナリ
サナケレハ馬足ノヒサクタクナリ
川溝ヲ飛ニハ平庭ニテ馬ニ稽古致サセ之氣ヘヽ

手綱ヲスワマ形ニ引通シ置氣抜所ナキ時ハ手經ノ余
リトリハ子ツクト一ツニトリテハ子ヲ落ルナリ右之通
ニイタシ微得者ヒサクタカズルナリ

一川可越様之事
馬イカタト云事アリ大勢渡ル時ノ事ナリ鞍ト々ヲ
ハナニ結付ル四カキ金ヲ用猶吉大形セヒトメニスル
モノナリ
馬芘ノ事

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

アヲリハ後ニ相違ナリ

一早川鐙ヲハツストニ云コトアリ是ハ鐙ヲ鞍ノ前輪ノ外ニテ相違テヲキ我モ足ニテ水ヲカキ馬ノヲヨクタスケトナル様ニスヘシトナリ

一馬セクトモ気ヲシツメシツカニノルヘシ声ハカケツ岸近ク成馬セクヘシ

一左右トモニ前鞍ヲトトモ後輪ノツトニテ両方引違後鞍ニムスビ付ハ子上テヨクヘシ急ノ時 口傳

一川ヲ後ニシテ手綱ヲヨミメシナリロヲノリ片足後フミハツサハヒキ廻シテイレノルヘシト云々

一川中惣シテノ水ヲ見テフス馬ニハ楊枝箱竿ノルイニテモ深々ト指入レヘシト云々

一浪之浮沓之事

ヲモキヲ用ユヘカラツ桐木ナキ時ハタラノ木或ハ麻ガラフクヘ夕良ノルイヲ用ヘシ六七寸ノ厚サノ板ヲ用ユル古文モアリ有様名ニ有レトモ先馬ヲヨキヤスキ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

様ニ有ル事一ナリウキニナリ馬ヲヨキヤスキ

一舟スマイニケ条之事

馬舟ヨリアヤマリテ山海川ニ入タルヲノセ様アリ

一舟ノ左右ヨリ一度ニ声ヲカケノスルモノ回ナリ

一定ナレハ乗セラズ其時ハ舟ニ付テ引之馬ノヨトカイニ竹ナトノルイヲ指出シテ其レトレヲカイヲ上ケ

サセヲヨカセルナリ

一定ハノセラレヌモノナリ

一馬舟中ニ置様之事

是ハ舟中ニ馬次山ニヨクイ付ノ事ナリ横馬ニヨクモノ

ナリ

一焼野乗様之事

是ハ野ヤケアトヲノル事ナリ兀テ火事ナトヲノル

モ同シ心得ナリ

セヽナノ土ヲ紙ニスリ付唐ノハミニ巻舟ハメヘシイキ

キラズナリ小便ニテ土ヲコネ用人モ赤土ヲ丸紙ヲ

クルミ合ナリ
ハニヲ大根ノシボリ汁ニテトキ用己ナリ

一 岨傳之事
ナヽツメ流落ノ様ツヽミ兜上ノ方ヘ乗上ル様ニ
ノルヘシ

一 スメリ道乗様之事
冬々タツヘイノ上ヲ乗ニ金カンシキヲカケヘシト云々
丸キ板金ニ穴六ツアケルナリ ⊙ 如此ナリ裏ニ

三ツイボヲウエルナリ

一 岸石坂落之事
下リ坂ヲノルニ鞍前ヘコケル事有其タメニシリ
カイノフサヲムスビ合後ノヒカヽミニカケル事有馬ノ
尾引返シ取ノル事モ有ト云云

一 鹿ノ通ルトコロハ馬モカヨウモノトナリ

一 自落之事
何ホト早クカケ出テモ居木ウツリシテヲツルニ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

ケカナシ亦手縄ヲヒチニカケムナカイヲトリヲ
ツル事モ有

一最後之鞭之事

首切ル事ハ急所ニテ何ノ事モナラズ引カ
レルトキノ事ナリ 勝テ用ユル事ナシ首ヲ牟ノ
ニテノウツトユフヲ説シソコ子タル事モ有ナリナカラ

一場所ニヨリ用テ吉キ事モ有ヘシ

馬ノ面ヲマハシ右ノ手ヲ左ニコシ面ニカケ右左一ツニシ
テ左ノ鞍ニ引通シ前輪ニ馬ノ首有（カヒツ）リ程ニシメ首
マカリタル所ヲシメヽカウツヘシ少シキツヲ有血ヲ
出ス事モ有ナリコレハ馬乱心ト見レハナリ

一肝強馬ニケ条之事

カン強馬ニハホウハミノ漕ヲ用ユルナリ

一鞭七ケ条之事

一川伏ニモ切ルヽニモシナラスルニモウツヘシト云云
二常ニ用ユルナリ 三コム馬出 四カケヲハヤウスルニ討

立片道ス几馬口ノ几馬ニモ切レ馬ニモ用

七[redacted]ハヤラカス几ニ引馬ニ川伏ニ物鷲ニモ討

上リ馬前

コミ馬ニシリカヘノクニ遣ヲトリシタヽカニ引ニ日月ヲ

討クセテノツ立ス几馬ニモシタヽカニ引ヘシ

クタヒレタル馬ニ下腹ヲウツヘシ

マム馬ニ立上リ平モヽヲウチシタヽカ後ニ當几九右ニ

引返シ鎧ニテホウミヲケ几ヘシ出ス上リ

七寸ハ庭棄ニ用常平ノ鞭ト云リ六寸ハ無立ニ

用立ナヨ竹カニ竹ハ竹ナトノ几イリ篠竹ノ

トナリニ寸ハ手サシノ鞭ト云イカニモホソキ心(ミノ)ヲ

用立八寸五分ハ初地入惣テ此税義ニ用立七寸五

分ハタヒ鞭獨棄ニ用立

右二條流軍馬秘密云々

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

極秘傳之巻條々

一修四維砕砍之手綱之事

付常之手綱之事

手綱ノ長サ弐丈二尺將軍ノ手綱
ト云紫色引手キハヲ水ツキ深
ヘシ茜ニモ深ク亦茜ノ水付ヲ紫ニ紫水付キヲアカ子ニ
モ深クナリカキニモ梅シホリニモ又有何モ賞翫ノ手

一綱ナリ　但深ノ夏　中九尺三寸　大名ノ手綱ト
云カキ梅シホリ水付ニ筋ヲ表ニタスベシ　一下ケ寸
キ水付コンナリト云々　常ノ手綱ヲ用ナリ

一具足鐙馬葉様之事

馬ノ気ヲ見覚セザレハ軍中ニテ
ハナラヌ故　馬ノ右ヲトリ出シノ儘又モアルベシ
トリ出シノ儘ニテ置キノ儘

一夜道馬ニヲシエル事

一 耳合ヨリ向ツラヲハタクナリ

一 馬上太刀討秘傳之事

手縱手綱ヲ用ル事秘授ト云ナリ 鐙ニテ突ルヽ時ハ突ル方ヘ馬ヲ廻ス太刀ニテモ討タルヽ時ハ同前

一 蘐苅ツキ葉様之事

歌云 葉心ノヲル丶心一ツニテ雲ノ上ニモノリテノホラン トヱヲ耳ニ三編ヨムト言事モ有リ

一 霞之鞭之事

口傳 物ヲ見テヲトロク馬ニハ目ノ上ノクボキ所ヲシタタカニヲス則止ムナリ 音ニテヲトロクニハ秋原ヲモミ丸シテ馬ノ両耳ニ入ル 口傳ノムテトモ云ナリ

夜中川ニ汐水ナシタル アサカハナト馬ニテ渡ニ浪ヲケタテレハ青光メ水玉火ノコトシ

一 岩石葉鉄皆之事

鉄粉 十五匁 五倍子 十匁 山薬 捌粉 各七匁

四種末メ猪油ニテ練リ爪ノ裏ニ沢山ニヌリ皆ヲ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

ウツヘシ　口傳　皆ノ門ニカハヲシキテ皆ヲウツヘシ
藥ヒカタマツテカラハ皆ヲハカツニモ吉薬凝テ痛ツ
大秘ナリ

一眠藥之事　付　血留之法之事
血留ノ法大秘　松ノミドリ石灰ト鷹ニ三種黒焼
ニシテ末シ用ナリ
凡下ニ五丁摘テニ吹ヌノビキ行ヘ右香ニ合ヲ銅ツボニ
入レ口ヲ凡下ニメ吹セル之一時ノ間ノユルト之

一夜ノ文火縄ニテ見様之事
ヒ文字ノ通ニ火ヲ付一字ツヽ見ル下ノ紙ニ火付ル

一川渡火之事
凡下服ニすシ出シテ持渡スヘシ是ハ敵目當ヲ
違ナスルタメナリ口傳

一馬兵粮丸之事　付　馬ツカレヌ法之事
吠茶ヨウイニハミナトコシライツニコレナイアレハヨシト
思ヘカラツハミナクテ是非ナスベキ様モナキトキナラハカウ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』請求記号 862-57
ガラス使用

ヘカラサル㕝ナリ此条ヲアテニシテハ三物ヲ不心懸ハ
軍馬不心得不穿鑿ノ武士ト云ツヘシト古先生ノヲ
シヱラレシトナリ

一結雁之事

一ヨトリ足チ鳥笹々ニアユマセ馬ツカレハ左ノ鼻ノ下
針四五ト右ハ立ナリニテサス

一馬息合之事

息合ノクスリハスヘテイキセサル前ニカウヘキヲイキヲ
ナシテカラ飼ハ気付ト云モノナリ気月ニモ此条妙也ト
云々
ハミニ青草ヲ結付テ舌ノ上ニ置吉鼻紙ニ入ノ小
便ヲシメシハミニ結付ル秘傳 此条ノ法トモハ至極秘ノ㕝ト云々
馬面ニ小便ヲシカケ柄杓ニテ受ケ口ヲ洗テ吉口
赤丹人参 二匁 辰砂 一両 丹草 一両 麝香
三朱 末メ煉密ニテ丸用也 紅閻 人参 一両

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

丹草 二卜 辰砂 一両二卜 麝香 一卜 茯苓 一両
赤蔔菜 三卜 リロ 二両 カリロク 二卜 木通 三卜
末メ密ニテ子リ用 麝香 人参 一卜 桔梗 一卜
辰砂 一匁 葛粉 一匁 丹草 一匁 茯苓 一匁
麝香 一朱 竜脳 半朱 末ノ用 良香圓
良香 茯苓 益ヤクし 村立 土 イチコ 枇木ノアマツタ
右等ト條々末メ用口傳多
烏黒薬圓 紫太ノ烏一双ロニ薬 牛子 紅花 等分

二入左右ノ羽ノ下ニモ 丹中 五両 人参 日 茯苓 日
大黄 日 薬牛子 日 苦辛 十両 右六味 真藤ニテ
苓黒焼ニシテ用エ 病馬ニモノ右ノ上ニ四遍宛数ニ
可治大秘 百里ヲ一時ニ薬行トモ息ツキツ入
一道具無之事 有山坂薬 上ニ薬下ニ様ニ変
難所ノ傳 手綱ヲ長シテ腹ノ下ニテ引違テノ
仕カケハ日前
シリカヘフフすヲハすミ帯ニ留前ニカヽリノルヘり

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

後ニカヽルヘカラツ

後ノクラニ葉前ニ山ヲタヽミ鞍ノ口強クルヘシ

前ニカヽルヘカラツトニヽヽ

一修四維前ニ事

登リ下リ秘手綱ヲ長クシテ息ヲ入ル様ニル

ヘシ是ヲ修四維ト秘事トニヽ

一道具口傳 なり 馬ニ事 口傳

手綱ニ口傳多上下ニ品深切同色等障泥紋八尺ヲ

イナハ手綱ト同シ色ヲ用ニヽ五尺弐八一丈五尺鞍シ

ハリ様具外ニ口傳ナト有ヨリ口傳多シ手綱ノモヤウ

馬ノ事身トカリ敏ノコトク長クロヤケノ深ヤン

強ク心十分成ヲ用ニ身ナヽク短クロサケノ浅キ

ヲ不用ト也外馬ノ見様ニ至極秘別記ニ入是ハ

右流ノ大秘也

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用

以上極位許之巻極秘抄終

一　五大事極至秘
古先生曰軍馬ノ極位ハ則平常ナリ平馬ニタンレンニナ
ケレハ軍中馬ヲ用ユルノ術ナリカタシ故ニ軍馬ノ真為
ト云大秘ハ則平馬ニスクル古又ナシ平馬ノ極位ハ則軍
馬ナリ平常馬ニタンレンシタリトモ戦馬ノ方ヲシラサレハ
其術ナシカタシ故ニ平馬ノ真儀トスル古又之ト云々
日詠ノ調子ト云ハソヨ々々ト風ノ吹心持ニテ何トナク勇
マシ自ハヤル心持ニシテ立スカシ鐙ヲハ文字ニ蹈折々

タテカカリ〳〵シテ馬ニ心ヲクッスベシ　日羽之馬用
是ハ馬気アマリシマリ気ナキ馬ニ用カケニ出鞍ノ四モ
日前サ後ノクラベリニ出スモ日前ニテ前橋ニヲ
モカヽリ〳〵立スカシ調子タカベヌ様ニヲルベシ父子ノ
日秋ノ調子ト云ハ我カ身有モクタ〳〵トモ手心モウッタリト
モテヨテリノ極暑ニ出長ミシスル心得リモカケノ
馬ニ用是ハヤル馬ヲヨシツ名ニ用鐙ヲシ揃テ踏
ムベシ　カツコ乱調子カツコトハ鐙ノコトヨリ居ホ

七二

ノ内先々立スカシ一方ニヨリテノ如共鐙ヲ踏ベシ
クロ々馬ハナリノ小方ニ右ノ如踏調子ニ出ス馬ニ用
右三ケ條共ニ口傳アラワシテ羽シカタシ〳〵々
馬人ヲ知ルトハ心ノ調子心ノツリ合ヲ専ニナスベシ
具カテカイハ人馬ヲ知ラツシテ人馬ニ知ルヨリ
タシレナラザルハナリカタシ風ヲ知ルトハ風吹カ
ントシ未發セヌ先ニ入札ウケイテ後風ヲウケロテ
ヌウロコトク馬キレントテノ首ヲマケムラヲ出サン

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

トテシッマリシッマランントテハヤリヌル ヲ 秋 先立テ
知調子ヲカ〳〵シ如此ナラハ百曲ノ馬アマル〳〵カラ
ツ則先以馬ノ気ヲホウシカ〳〵スト云ヒテナリタン
レンシテ妙ヲシレト云ヒ
軍幷神式ト云々神前軍中ニ不叶シテ棄ウ
キスルトキノ礼ノリ通ル事ヲ可喝
カキナカス大山本ノ五十鈴川ハ百萬代ノツミ
ハノコラウシト喝テ先手經ヲ文字ニ取扇ヲ

タヽシウシテ幷ニシ
何事モ神ニマカスル我身ソト思心ノツヒ
トカハナシト喝鐙ヲ付シカウ〳〵ヲクルテ進
〳〵シトヌヽ右両様ノ門イツレヲ用テモ吉ト云
馬上ニテ神ヲイノリタキトキハ先鐙ヲハツシラツホ
ナラリ哥
神葉ニユウトリシテノウ
ノ雲キリモナシト喝手經ヲスヽテ扇ヲタヽシ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57
ガラス使用

ウシテ平伏シテ拝ス右口傳是ヲカラ手ホト
云
馬ノリ初向方角ノ事東ニ向ヘシ大秘ナリ
出陳馬出ノ作朝日向行カケ見ヘズハ手負弐ハ
討死ノ相ノ馬カケ見ヘツハ馬手負弐ハ死スヘシ手
カイハ拔テ順ムヘシ討死ト思キハメバ月額ヨリ乙
ヘシ急ノトキハ甲ノ緒ヲ切テ捨ヘシ口
甲鎧ノ引合三哥詩ト入テ右死テノ信モ高膿

詳シ名ヲハツカシメツ陰ノ傳是ヲカラ口傳多
軍馬ノ大事一三落馬吉凶ノ妥右ハ吉左ハ凶二出馬ノ
吉凶イサムハ吉ヨクルハ凶コムモ凶 三三鞭折ル吉
凶昼ハ先折凶本折大吉夜ハ先折吉本折凶ナリ
四五六七八九十佛說ト云ハ大喝三聲ノ臨兵闘者皆陳
列在前ヲ唱四々ノ印ヲ結ヒカラ金餘之文ノ喝迷故
三界城悟故十方空(本)来無東西何處南北ト喝次ニ梭
ノ印ヲ結右ヲ結ニ寂運萬尅ト云ヒカラ結マカシナリ

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

ムシユリシユリハン次ニトツコノ句ヲ結ヲ外ノ文ヲ唱
施行無行邪生滅法寂滅楽ト唱テ劔ノ印
ヲ結ナカラ絶色定相ト唱テ
十一二目付ト云ヲ四面ノ鞍ニ
ヲ付ル走ル馬ニハトメ所ニ目ヲ
ニ目ヲ付ヨ物シ越スニハ越物ノ先
馬ニハ鼻ノ先ニ目ヲ付ヨ細
ニ目ヲ付ヨ違板哥

孤ハ次右ハ左ニタスケラレアシキハキツニ
カヘリコソスレトニ返唱ムケ式ハ上サシノカムラ
矢ヲサカテニ持左右左ト三度後之

二條流軍馬秘術聞書極秘抄終

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57
ガラス使用

862
57

14291

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』 請求記号 862-57

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二条流軍馬秘書』　請求記号 862-57

ガラス使用